

1 年 次 生

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ミュージックセオリー I	高橋伸哉

科目概要

この科目では、楽典の基礎的な項目である、音程や音階、調について学びます。これらは、本科2年間で受講する、様々な音楽理論系授業や作編曲実習などで必要不可欠な知識です。

到達目標

- 1クォーター
様々な音程(完全、長、短、増、減)と、コードネーム(基礎的な三和音と四和音)の読み書き
- 2クォーター
すべての長音階および短音階の読み書き、すべての調号の理解、移調の理解

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	記譜法の基礎	音部記号や、様々な音符、休符等の正しい書き方について学びます。
第2回	音程の基礎	音程の基礎となる、単音程の数え方について学びます。
第3回	音程の転回、複音程	前週で学んだ単音程の数え方をもとに、音程の転回や複音程について学びます。
第4回	音程練習問題	前週までに学んだ音程の学習範囲について、練習問題の実施を通して理解を深めます。
第5回	コードネームの読み方(基礎編)	長三和音をはじめとする三和音と、属7の和音をはじめとする四和音について、それらのコードネームの読み方を学びます。
第6回	練習問題(試験対策)	次週のクォーター末試験に向けて、練習問題を実施します。
第7回	筆記試験(音程、コードネーム)	音程とコードネームに関する筆記試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

- 筆記試験:80% ※楽譜の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度:20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーター末試験答案返却、解説	1クォーター末試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。
第2回	コードネームの読み方(中級編)	□6や□sus4、□dimなどの和音について、そのしくみやコードネームの読み方について学びます。
第3回	コードネームの読み方(上級編)	オンコードやテンションノートなどの和音について、そのしくみやコードネームの読み方について学びます。
第4回	長音階と短音階	長音階と3種の短音階について学びます。
第5回	調号 近親調と遠隔調	長調、短調すべての調の調号について学ぶほか、属調や下屬調をはじめとする近親調について学びます。
第6回	移調	移調について学習し、実際に短い単旋律を様々な調に移調する練習問題を実施します。
第7回	練習問題(試験対策)	次週の春学期末試験に向けて、練習問題を実施します。
第8回	筆記試験(音階、調、調号)	音階と調、調号に関する試験を実施します。

学期末試験評価方法

- 筆記試験:80% ※楽譜の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度:20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ミュージックセオリーⅡ	高橋伸哉

科目概要

この科目では、和声音楽の文法ともいえる和声法の基礎的な範囲を学びます。四声体和声の分析力を身に付けることにより、本科2年で履修する「スコアリーディング」の授業にもスムーズに入っていけることでしょう。

到達目標

- 1クォーター
属7の和音を含む、C durの四声体和声分析
- 2クォーター
属9の和音を含む、様々なdurとmollの四声体和声分析

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声法の基礎用語	和声法の学習を始めるにあたり、基礎的な用語について学びます。
第2回	和音記号、転回形	和声分析に必要な不可欠な、和音記号と転回形のしくみについて学びます。
第3回	和音の機能 カデンツ	和音が持つ様々な機能(はたらき)について学ぶほか、和声音楽の「構文」であるカデンツについて学びます。
第4回	ドミナントモーション 属7の和音	ドミナントモーションのしくみについて学ぶほか、属7の和音について学びます。
第5回	終止	音楽の句読点である様々な終止について学びます。 また、I度の第2転回形についてもこの回で学びます
第6回	練習問題(試験対策)	次週のクォーター末試験に向けて、練習問題を実施します。
第7回	筆記試験	3クォーターの学習範囲で、四声体和声分析の筆記試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※分析記号類の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3クォーター末試験答案返却、解説 強進行と弱進行	3クォーター末試験の答え合わせを行います。 また、強進行と弱進行についてもこの回で学びます。
第2回	Ⅱ7の和音	Ⅱ7の和音のしくみについて学びます。
第3回	属7の根音省略形	属7の根音省略形について学びます。
第4回	属9の和音	属9の和音のしくみについて学びます。
第5回	各種の調(長調)	様々な長調による四声体和声の分析を実施します。
第6回	各種の調(短調)	様々な短調による四声体和声の分析を実施します。 また、短調特有の終止についてもこの回で学びます。
第7回	練習問題(試験対策)	次週の秋学期末試験(学年末試験)に向けて、練習問題を実施します。
第8回	筆記試験	秋学期の学習範囲で、四声体和声分析の筆記試験を実施します。

学期末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※分析記号類の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ソルフェージュ I	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	専攻音楽史Ⅰ	八木澤 教司

科目概要

西洋音楽史において重要な作曲家の作品を中心に、その音楽様式と時代背景を探る内容です。

楽曲は音楽だけではなく絵画や他芸術の影響を受けて発展してきたことを、CD・DVD鑑賞を通じて理解していく実用的な内容ですので、積極的な参加を期待しています。

到達目標

各時代の重要な作曲家と作品を知り、その時代の音楽形式や様式を理解する。そして実際に試験やコンサートで演奏する楽曲が、どの時代のどのような様式のものであるかを作風から類推できることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ、授業内容の説明(到達の目的や評価方法を含めて)
第2回	音楽の起源	音楽の始まり～人々の生活との結びつき 記譜法の発展と楽譜の必要性について
第3回	ルネサンス期の音楽	ガブリエリを中心とした多声音楽の発展 教会音楽と建築構造について
第4回	バロック時代の音楽	バッハ、テレマン、ヴィヴァルディ、コレリを中心 ドイツとイタリアの音楽の特徴
第5回	古典派の音楽Ⅰ	ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心 時代背景と音楽の結びつきについて
第6回	古典派の音楽Ⅱ	基本となる音楽形式、楽器編成について
第7回	試験(小テスト)	復習を兼ねた小テストを授業内で実施

クォーター末試験評価方法

出席状況(50%)、授業への積極性(25%)、内容の理解度(25%)を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前期ロマン派の音楽Ⅰ	シューベルト、ウェーバー、メンデルスゾーンの作品を中心に 時代背景と作風、楽器編成の特徴、音楽形式について
第2回	前期ロマン派の音楽Ⅱ	シューベルト、ショパンの作品を中心に 時代背景と作風、楽器編成の特徴、音楽形式について
第3回	後期ロマン派の音楽Ⅰ	パガニーニ、ベルリオーズの作品を中心に 時代背景と作風、楽器編成の特徴、音楽形式について
第4回	後期ロマン派の音楽Ⅱ	リスト、ワーグナーの作品を中心に 時代背景と作風、楽器編成の特徴、音楽形式について
第5回	その他のロマン派の音楽	器楽作品を残した他の作曲家たちの作品を中心に 時代背景と音楽の結びつきについて
第6回	国民楽派の音楽	ロシア5人組、シベリウス、スメタナの作品を中心に 時代背景と音楽の結びつきについて
第7回	これまでの復習	試験に向けての総合的な復習 理解度の確認
第8回	試験(レポート提出)	課題によるレポート提出を実施

学期末試験評価方法

出席状況(50%)、授業への積極性(25%)、内容の理解度(25%)を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	専攻音楽史Ⅱ	八木澤 教司

科目概要

西洋音楽史において重要な作曲家の作品を中心に、その音楽様式と時代背景を探る内容です。
 楽曲は音楽だけではなく絵画や他芸術の影響を受けて発展してきたことを、CD・DVD鑑賞を通じて理解していく実用的な内容ですので、積極的な参加を期待しています。

到達目標

各時代の重要な作曲家と作品を知り、その時代の音楽形式や様式を理解する。
 そして実際に試験やコンサートで演奏する楽曲が、どの時代のどのような様式のものであるかを作風から類推できることを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明(到達の目的や評価方法を含めて)
第2回	近代の音楽Ⅰ	ドビュッシーの作品を中心とした印象主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第3回	近代の音楽Ⅱ	モネの絵画を中心とした印象主義 他芸術を含めた時代背景について
第4回	近代の音楽Ⅲ	ストラヴィンスキーの作品を中心とした新古典主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第5回	近代の音楽Ⅳ	フランス6人組の作品を中心とした新古典主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第6回	近代の音楽Ⅴ	イベールの作風 印象主義と新古典主義の作風の融合について
第7回	試験(小テスト)	復習を兼ねた小テストを授業内で実施

クォーター末試験評価方法

出席状況(50%)、授業への積極性(25%)、内容の理解度(25%)を総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	現代の音楽Ⅰ	バルトークの作品を中心とした原始主義、民族的古典主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第2回	現代の音楽Ⅱ	シェーンベルクとその弟子たちの作品と表現主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第3回	現代の音楽Ⅲ	シェーンベルクとその弟子たちの作品と12音主義 時代背景と音楽の結びつきについて
第4回	現代の音楽Ⅳ	カンディンスキーの絵画を中心とした表現主義 他芸術を含めた時代背景について
第5回	現代の音楽Ⅴ	ケージの作品を中心とした偶然性、前衛音楽 時代背景と音楽の結びつきについて
第6回	現代の音楽Ⅵ	ミロの絵画を中心とした現代芸術 他芸術を含めた時代背景について
第7回	これまでの復習	試験に向けての総合的な復習 理解度の確認
第8回	試験(レポート提出)	課題によるレポート提出を実施

学期末試験評価方法

出席状況(50%)、授業への積極性(25%)、内容の理解度(25%)を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (フルート)	野崎和宏

科目概要

フルート奏法の修得に不可欠な基礎訓練の重要性を理解し、合理的な日課練習の具体的な実践方法を”デイリートレーニング”に沿い項目ごとに順序だてて学びます。

到達目標

正しい呼吸法と奏法を理解し、倍音から正規運指への移行とスムーズな運指。音階の理解と各種アーティキュレーションの修得が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	年間授業計画、楽器の発音原理等の説明
第2回	音作り1	楽器の響かせ方、呼吸法、アンブシュア、姿勢の修正など
第3回	音作り2	低音域、基音
第4回	音作り3	倍音(ハーモニクス)、第2オクターブ
第5回	音作り4	第3オクターブ
第6回	フィンガー・テクニク	手、指のポジション
第7回	クォーターの総括	実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度を出席率、授業態度(平常点)と実技試験の到達度を参考に総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1クォーターの復習
第2回	発音1	タンギング(シングル、ダブル)の訓練
第3回	発音2	タンギング(トリプル、複合)の訓練
第4回	音階練習1	半音階・全音音階
第5回	音階練習2	長調の音階
第6回	音階練習3	短調の音階
第7回	アーティキュレーション	スケール課題を使った各種アーティキュレーション訓練
第8回	春学期の総括	実技試験

学期末試験評価方法

試験評価方法を120字程度で記入してください。このセルは自動折り返しの設定になっています。箇条書きなどで改行が必要な場合は(Alt+Enter)で行ってください。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(フルート)	野崎和宏

科目概要

春学期に続き基礎力の向上を目指します。

到達目標

アルペッジョとトリルの修得が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	秋学期授業の指針を説明
第2回	音の発展(跳躍)	Moyse / De la sonorite より 跳躍の訓練
第3回	音の発展(強弱の変化)	各種課題による強弱の変化の訓練と問題点の指摘
第4回	音の発展(音程)	音程修正の必要性とそのテクニック
第5回	アルペッジョ1	Taffanel et Gaubert EJ.10
第6回	アルペッジョ2	Taffanel et Gaubert EJ.12
第7回	クォーターの総括	実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度を出席率、授業態度(平常点)と実技試験の到達度を参考に総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アルペッジョ3	Taffanel et Gaubert EJ.14
第2回	アルペッジョ4	各種アルペッジョの展開型
第3回	トリル1	第1オクターブ
第4回	トリル2	第2オクターブ
第5回	トリル3	第3オクターブ
第6回	補充練習1	1年間のカリキュラムの中から到達度に応じた補足訓練
第7回	補充練習2	1年間のカリキュラムの中から到達度に応じた補足訓練
第8回	学年末総括	実技試験

学期末試験評価方法

授業内容の理解度を出席率、授業態度(平常点)と実技試験の到達度を参考に総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (Ob.Fg.)	市原 満

科目概要

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように表現してほしいかを読み取り、個々の解釈と共に、それを伝えるために必要な読譜力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標

- 1.時代様式に則ったアーティキュレーション、ダイナミクス、フレージング、装飾音の各表現方法を理解する。
- 2.音楽表現の基礎である音階の仕組みを理解、全調(長調、短調)を演奏できるようにする。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階の仕組み(長音階)	長音階の構造を解説。＃、♭3つまでの長音階を練習、音程の取り方のポイントも習得します。
第2回	音階の仕組み(短音階)	旋律的短音階、和声的短音階の構造と違いを解説。＃、♭3つまでの短音階を練習、音程のとり方のポイントを習得します。
第3回	平行調、同主調、属調、下屬調	平行調、同主調、属調、下屬調について解説。実践しながら転調を体験して理解しましょう。
第4回	全調の音階と半音階	＃、♭6つまでの全音階を練習します。特に短調(旋律的、和声的)を重点的に練習しましょう。半音階の練習法も学びます。
第5回	音階練習法(1)	音階を徐々に速く演奏できるようにするための練習方法。色々なリズムでフィンガリングの訓練をします。
第6回	音階練習法(2)	色々なアーティキュレーションで音階練習をします。時代様式に則った表現方法も学びます。
第7回	音階の復習とまとめ	全ての音階が理解できているかを1人ずつ確認します。全調から2~3つの音階を平行調で演奏してください(テンポ指定無し)。

クォーター末試験評価方法

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。

出席:70% 平常点:20% 確認試験:10%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典(1)	譜表と音名、音符と休符について学びます。音名は、日本、ドイツを中心に各国語の音名も解説します。
第2回	楽典(2)	拍子とリズムについて学びます。変拍子のとり方のポイントや色々な国の民族音楽のリズムの特徴なども解説します。
第3回	楽典(3)	テンポの表記とダイナミクスの表記について学びます。イタリア語を基本に、ドイツ語とフランス語の表記も解説します。
第4回	楽典(4)	表情の表記と奏法の表記について学びます。イタリア語を基本に、ドイツ語やフランス語の表記も解説します。
第5回	楽典(5)	装飾音とアーティキュレーションについて学びます。時代様式に則った表現方法をを解説します。
第6回	楽典(1~5)の実践	学んだ楽典の知識を駆使して楽譜を読む練習をします。 課題曲: バロック作品
第7回	楽典(1~5)の実践	学んだ楽典の知識を駆使して楽譜を読む練習をします。 課題曲: モーツァルト・デュエット曲
第8回	春学期のまとめと確認試験	楽典の理解度を簡単な試験曲で確認します。楽譜上の表記や装飾音、またアーティキュレーションなどについて質問します。

学期末試験評価方法

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。

音階は基本なので春学期中に全調習得を心がけてください。

出席:70% 平常点:20% 試験:10%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ (Ob.Fg.)	市原 満

科目概要

楽譜に書かれていることから作曲家がどのように表現してほしいかを読み取り、個々の解釈と共に、それを伝えるために必要な読譜力と演奏技術の基礎を習得します。

到達目標

音楽表現の基礎である音階を引き続き徹底して練習し、音程感と和声感の向上を目指します。
音階全調をある程度の速いテンポでスムーズに演奏できるようにしましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音程	2つの音の隔たり、音程の概念について学びます。
第2回	音程の練習(1)	ユニゾン、完全八度(オクターヴ)の音程の取り方のポイントを学びます。
第3回	音程の練習(2)	長三度、短三度、長六度、短六度の音程の作り方のポイントを学びます。
第4回	音程の練習(3)	完全四度、完全五度、また減音程の概念と音程の作り方のポイントを学びます。
第5回	音程の練習(4)	＃、♭2つまでの音階で長短三度音程の実践。
第6回	音程とアンサンブル	アンサンブルの中での音程の作り方を簡単なデュエット曲の実践から学びます。
第7回	音程の復習とまとめ	純正な音程が作れるポイントを理解しているか、簡単なデュエット曲で確認試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

出席状況、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席:70% 平常点:20% 確認試験:10%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハーモニー	楽典的観点からのハーモニー(和音)について学びます。色々なハーモニーの表情の違いなども解説します。
第2回	ハーモニーの練習(1)	長三和音の作り方を学びます。美しいハーモニーを表現できる音程感を習得します。
第3回	ハーモニーの練習(2)	短三和音の作り方を学びます。短調の和音の雰囲気表現できる音程感を習得します。
第4回	ハーモニーの練習(3)	七の和音の作り方を学びます。属七の和音の表情を理解し表現する方法を習得します。
第5回	アンサンブルの基本	アンサンブルの概念と基本を学びます。二重奏～大編成までのアンサンブル形態について解説します。
第6回	アンサンブル演習	2～3重奏の課題曲で、アインザッツを合わせるコツ、音程のとり方のコツなどを実践しながら学びます。
第7回	吹奏楽・管弦楽	吹奏楽・管弦楽の概念と基本的な演奏技術を学びます。実際に合奏授業で取り組んでいる曲を題材にします。
第8回	秋学期の復習とまとめ	2～3重奏曲を課題曲として、音程感、和声感の習得度を確認します。

学期末試験評価方法

出席率、授業への積極性、内容の理解度を総合的に評価します。
出席:70% 平常点:20% 試験:10%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (クラリネット)	円田剛明

科目概要

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時の為のクラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。日々のトレーニングの為のロングトーンや音階練習、アンブシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標

- ・クラリネットの構造と音の出るしくみの確認と理解。
- ・全長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7を理解し、暗譜で演奏出来るようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	I・IIクォーターの指針の説明。
第2回	クラリネットの歴史と音が出る仕組み。	クラリネットの構造を知り、音を出すところからロングトーンまで。
第3回	リードとマウスピースの関係について。	リードとマウスピースについての座学、及び半音または全音移動するロングトーン演習。
第4回	譜表と各国語による音名・音階。	クラリネットは移調楽器でさまざまな管がある。その楽譜の書かれ方と実音についての座学、及び長音階演習。
第5回	長音階における音階と主和音。	長音階における音階と主和音の座学と長音階のスケール・アルペジオの実習。
第6回	長音階における音階と主和音と属7の和音。	長音階における音階と主和音と属7の和音の座学と長音階のスケール・アルペジオ・属7アルペジオの実習。
第7回	クォーター末試験・全長調の音階。	全長調の音階の中から3～4つの調を演奏、習熟度を確認する。

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、習熟度を、出席率(60パーセント)・平常点(20パーセント)・クォーター末試験(20パーセント)の配分で総合的に評価する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	高音域の運指とアンブシュア。	高音域の運指・アンブシュアを確認し、長音階の音域を広げる練習の実習。
第2回	広音域の音階・アルペジオ。	前回の高音域を含めた広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオの実習。
第3回	広音域の音階・属7。	高音域を含めた広い音域を使った長音階のスケールとアルペジオ、及び属7の実習。
第4回	アルペジオ・属7と減7の和音について。	長音階においてのアルペジオ・属7・減7の和音の理解と実習。
第5回	ソルフェージュ・初見視唱。	手や体で拍子を取りながら楽譜を読む練習。音程は取れなくても良い。
第6回	ソルフェージュ・初見演奏。	初めて見る楽譜をクラリネットを使って演奏する練習。
第7回	春学期のまとめ。	長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の実習、及び初見実習。
第8回	学期末試験。	長音階のスケール・アルペジオ・属7・減7の演奏、及び初見演奏。

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、習熟度を、出席率(60パーセント)・平常点(20パーセント)・学期末試験(20パーセント)の配分で総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(クラリネット)	円田剛明

科目概要

春・秋学期を通して、クラリネットの演奏を続けて行く為、また教える立場になった時の為のクラリネットのしくみや奏法等の基礎知識の確認と習得をします。日々のトレーニングの為のロングトーンや音階練習、アンブシュアや息の使い方の理解と習得を目指します。

到達目標

- ・全長短調のスケール・アルペジオ・属7・減7を楽譜を見ずに演奏する。
- ・自分に合った日々のトレーニングを確立する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	Ⅲ・Ⅳクォーターの指針の説明。
第2回	和声短音階と旋律的短音階。	和声短音階と旋律的短音階の成り立ちを確認・理解し、全短調の実習。
第3回	短音階のアルペジオ。	短音階のスケール・アルペジオの理解と実習。
第4回	短音階の属7・減7のアルペジオ。	短音階におけるスケール・アルペジオ、さらに属7・減7のアルペジオの理解と実習。
第5回	平行調と同主調。	平行調と同主調についての確認と理解。様々な順番でスケールを練習する。
第6回	ソルフェージュ・初見演奏その2。	2クォーターで行ったソルフェージュ・初見演奏の復習とさらに高度な課題へ取り組む。
第7回	クォーター末試験・全短調の音階。	全短調の音階の中から3～4つの調を演奏、習熟度を確認する。

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、習熟度を、出席率(60パーセント)・平常点(20パーセント)・クォーター末試験(20パーセント)の配分で総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンブシュアとタンギング。	発音や様々な音の長さを吹き分けるために必要なアンブシュアや舌について考え理解を深める。
第2回	音階とアーティキュレーション。	スケールやアルペジオに様々なアーティキュレーションを使つての実習。
第3回	3度・二重3度でのドワテ。	3度・二重3度の実習とそれらを使つて楽器を持つ手の型や動かす範囲・速さの理解と確認。
第4回	レガートと跳躍。	3度以上離れた音を繋げて吹く時のアンブシュアや息の使い方の確認と実習。
第5回	独奏の基本。ジャンルや時代の違い。	クラリネット1本、またはクラリネットとピアノで演奏する時の基本的な考え方と実習。
第6回	アンサンブルの基本・二重奏。	他の音を聞きながら演奏するアンサンブルの基本。タイミングや音量・音程の取り方などの実習。
第7回	クラリネットのアンサンブル。	3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの基本と考え方、及び実習。
第8回	学期末試験。	3人以上のクラリネット属によるアンサンブルの発表。

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、習熟度を、出席率(60パーセント)・平常点(20パーセント)・学期末試験(20パーセント)の配分で総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (SAX)	中村均一

科目概要

音楽を正確に表現するための基礎的な演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を簡単な曲を通して養う。

到達目標

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	基礎技術	「息」のトレーニング ロングトーンの精度をあげる方法と意味をとらえる
第3回	基礎技術	「口」のトレーニング 音程のコントロール法を取得する
第4回	基礎技術	「舌」のトレーニング タンギングのコントロールを取得する
第5回	基礎技術	「指」のトレーニング スケールベースの練習および音磨きの練習法
第6回	基礎技術	「顎」のトレーニング ヴィブラートのコントロールを取得する
第7回	テスト	基礎練習の実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メソッドを使った練習	マルセル・ミュールによる(スケール)
第2回	メソッドを使った練習	オリジナルのCDを使った音感トレーニング
第3回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック初級)
第4回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック中級)
第5回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック上級)
第6回	メソッドを使った練習	オリバー・ネルソンによる(即興パターン)
第7回	メソッドを使った練習	ロンデックスによる(技術練習)
第8回	テスト	1,2クォーターの内容から実技試験

学期末試験評価方法

授業で取り上げたテキストの中から課題を出し正しくトレーニング出来るかを実技試験とする。内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(SAX)	中村均一

科目概要

音楽を専門的に学ぶ者として、あくまでもフィーリングだけでなく論理的に自分や他の演奏を分析し、評論や指導が出来るように実際に管楽器講習会の指導を行うシミュレーションをしながらトレーニングをする。

到達目標

基礎練習を理論的に捉えて音楽の説明や解説が出来るようになって欲しい。演奏にあたっては常に正しい理論は何かを考えながら練習法を工夫できる様になりたい。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	春学期を振り返って、今後の課題の説明 それぞれの技術的な問題点を話し合う
第2回	講習会シミュレーション1	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第3回	講習会シミュレーション2	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第4回	講習会シミュレーション3	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第5回	講習会シミュレーション4	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第6回	講習会シミュレーション5	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第7回	講習会シミュレーション6	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。

クォーター末試験評価方法

授業内で行われたシミュレーションの内容や、評論内容を総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(ユニゾン中心)
第2回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(音程中心)
第3回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(和音中心)
第4回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(リズム中心)
第5回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(ダイナミクス中心)
第6回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(アナリーゼ中心)
第7回	まとめ	1年を振り返って、基礎トレーニングの確認
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。
自分の演奏を客観的に分析をして理論に照らし合わせてより良い音楽にするための方法を解説出来る様にしたい。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (ホルン)	下田 太郎

科目概要

ホルンという楽器の歴史や構造、そして技術向上のための基本奏法を理解し、楽曲作品演奏に応用する。

到達目標

様々なパターンの練習方法から基礎練習、呼吸、姿勢、音を作り、作曲家が求めるホルンの音を作っていく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	年間授業計画通達	授業の目的を説明し、ホルンという楽器の理解度を確認します。
第2回	ノータンギングでの息のコントロール	中音域の基本となる音をタンギング無しで演奏し、呼吸と姿勢を確認します。
第3回	中～低音域の構築	吹奏楽ではなかなか使用されない低音域のコントロール法を訓練します。
第4回	タンギングのコントロール1	中音域でのしっかりとしたタンギングの発音で余計な力みを取り、クリアでスムーズな息の流れとの関係を訓練します。
第5回	タンギングのコントロール2	低音域でしっかりとした響きと音量を作れるタンギングの舌のコントロールを理解します。
第6回	タンギングのコントロール3	高音域で力みのない発音の方法を理解します。
第7回	1回目から6回目までの内容の理解度の確認	一人ずつ呼吸、姿勢を確認し、スケールを演奏しながら低音域から高音域までを演奏して頂きます。

クォーター末試験評価方法

授業の理解度と取り組みの成果を実際に演奏します。
(グループ・一人ずつの両方を実施)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	下降系・上昇系スラー	スラーでの音域の変化をしながらアンブシュアと口内容積のコントロールを会得します。
第2回	ハーモニートレーニング1	通常のdurのハーモニーでの響きの関係を理解しながら同時に分散和音を理解します。
第3回	ハーモニートレーニング2	平均律的なスケールとハーモニックなスケール(調性の理解)の二種類を理解します。
第4回	ナチュラルホルンの奏法の理解	ヴァルプを使わずに、いわゆるナチュラルホルン奏法を実際に演奏して古典時代の作品のフレーズを演奏してみます。
第5回	初見演奏1	エチュードなどの譜面を初見で演奏し、初見演奏のコツを理解します。
第6回	初見演奏2	アンサンブル曲を用いて初見の演奏を実施します。へ音記号の理解も同時に行います。
第7回	グループ別にアンサンブル曲を練習	グループ分けをし、アンサンブル曲を紹介し、練習をして授業内で発表します。
第8回	演奏発表	エチュード・スケール・初見の課題を出し、一人ずつ演奏して頂きます。

学期末試験評価方法

合計14回行われた授業の成果を演奏で発表します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(ホルン)	下田 太郎

科目概要

ホルンという楽器の歴史や構造、そして技術向上のための基本奏法を理解し、楽曲作品演奏に応用する。

到達目標

様々なパターンの練習方法から基礎練習、呼吸、姿勢、音を作り、作曲家が求めるホルンの音を作っていく。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スケールとアルペジオ1	中～低音域のスケールとリップスラーを中心に口内容積のコントロールを確認します。
第2回	スケールとアルペジオ2	高音域のリップスラーを織り混ぜたアルペジオと倍音並列を理解します。
第3回	ハーモントレーニング3	mollのハーモニーの音色と響きを理解します。
第4回	ハーモントレーニング4	コーラル譜面を使い各々のパートの役割を理解します。
第5回	初見演奏3	エチュードやデュエットを使って初見力を高めます。
第6回	初見演奏4	エチュードやデュエットを使って初見力を高めます。
第7回	小テスト	第1回～第6回までの理解度の確認として実際に演奏します。

クォーター末試験評価方法

授業の理解度と取り組みの成果を実際に演奏します。
(グループ・一人ずつの両方を実施)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ホルンの歴史の理解1	狩猟ホルンから現代のヴァルブホルンまでの進化と仕組みを理解します。
第2回	ホルンの歴史の理解2	現代のホルンの特性と特殊奏法を効果的にする事を理解します。
第3回	マウスピースの特徴の理解	様々な形状やサイズのマウスピースのそれぞれの特徴を理解します。
第4回	楽器の各タイプの特徴の理解	多くのメーカーとその特徴を理解します。
第5回	アンサンブル演奏1	様々な編成のホルンアンサンブルを演奏してみます。
第6回	アンサンブル演奏2	様々な編成のホルンアンサンブルを演奏してみます。
第7回	アンサンブル演奏3	様々な編成のホルンアンサンブルを演奏してみます。
第8回	学年末試験	年間を通じた授業内容の理解度と向上度を実際に演奏します。

学期末試験評価方法

合計14回行われた授業の成果を演奏で発表します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシットレーニング I (トランペット・トロンボーン)	班目加奈 山口隼士

科目概要

- 1.呼吸法の確認と習得
- 2.楽典的知識の習得と演奏への応用
- 3.基礎技術の確認、トレーニング方法の研究

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ、授業内容の説明
第2回	基礎技術①	C-dur、スラー
第3回	基礎技術②	a-moll
第4回	基礎技術③	F-dur、強弱
第5回	基礎技術④	d-moll
第6回	基礎技術⑤	G-dur、アルペジオ
第7回	まとめ	演奏試験

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑥	e-moll
第3回	基礎技術⑦	B-dur、シンコペーション
第4回	基礎技術⑧	g-moll
第5回	基礎技術⑨	D-dur、リップスラー
第6回	基礎技術⑩	h-moll
第7回	基礎技術⑪	Es-dur、半音階
第8回	まとめ	演奏試験

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ (トランペット・トロンボーン)	班目加奈 山口隼士

科目概要

- 1.基礎技術の充実
- 2.楽典的知識の演奏への応用
- 3.音楽基礎能力の向上

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	基礎技術⑫	c-moll
第3回	基礎技術⑬	A-dur、付点
第4回	基礎技術⑭	fis-moll
第5回	基礎技術⑮	As-dur、ダブルタンギング
第6回	基礎技術⑯	f-moll
第7回	まとめ	演奏試験

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑰	E-dur、トリプルタンギング
第3回	基礎技術⑱	cis-moll
第4回	基礎技術⑲	Des-dur、b-moll
第5回	基礎技術⑳	H-dur、gis-moll
第6回	基礎技術㉑	Ges-dur、es-moll
第7回	基礎技術㉒	Fis-dur、dis-moll
第8回	まとめ	演奏試験

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (ユーフォニアム・テューバ)	齋藤充

科目概要

- 1.呼吸法の確認と習得
- 2.楽典的知識の習得と演奏への応用
- 3.基礎技術の確認、トレーニング方法の研究

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ、授業内容の説明
第2回	基礎技術①	C-dur、スラー
第3回	基礎技術②	a-moll
第4回	基礎技術③	F-dur、強弱
第5回	基礎技術④	d-moll
第6回	基礎技術⑤	G-dur、アルペジオ
第7回	まとめ	演奏試験

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑥	e-moll
第3回	基礎技術⑦	B-dur、シンコペーション
第4回	基礎技術⑧	g-moll
第5回	基礎技術⑨	D-dur、リップスラー
第6回	基礎技術⑩	h-moll
第7回	基礎技術⑪	Es-dur、半音階
第8回	まとめ	演奏試験

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ (ユーフォニアム・テューバ)	齋藤充

科目概要

- 1.基礎技術の充実
- 2.楽典的知識の演奏への応用
- 3.音楽基礎能力の向上

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	基礎技術⑫	c-moll
第3回	基礎技術⑬	A-dur、付点
第4回	基礎技術⑭	fis-moll
第5回	基礎技術⑮	As-dur、ダブルタンギング
第6回	基礎技術⑯	f-moll
第7回	まとめ	演奏試験

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑰	E-dur、トリプルタンギング
第3回	基礎技術⑱	cis-moll
第4回	基礎技術⑲	Des-dur、b-moll
第5回	基礎技術⑳	H-dur、gis-moll
第6回	基礎技術㉑	Ges-dur、es-moll
第7回	基礎技術㉒	Fis-dur、dis-moll
第8回	まとめ	演奏試験

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニング I (打楽器)	増田博之

科目概要

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。
 スネアドラム: 1つ打ち、2つ打ち、ロール、アクセントの技術の他に、基礎リズムを演奏してリズムの取り方や感じ方を学びます。
 マリンバ: 正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通して読譜力を養います。

到達目標

授業の目標を理解し、正しい奏法で演奏できる。
 スネアドラム: 1つ打ち、基礎リズムを正確に演奏できる。
 マリンバ: 音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の説明 (授業の目標、準備するもの、評価の方法 等)
第2回	基礎リズム①、半音階	パチやマレットの持ち方・構え方 基礎リズムや半音階の演奏
第3回	1つ打ち、C-durの音階	基礎リズム、1つ打ち、 C-durの音階
第4回	基礎リズム②、C-durのアルペジオ	基礎リズム、1つ打ち、 C-durのアルペジオ、メロディーの演奏
第5回	アクセント、a-mollの音階	いろいろなストローク、 a-mollの音階
第6回	音名、a-mollのアルペジオ	音名を覚える a-mollのアルペジオ、メロディーの演奏
第7回	テスト	1つ打ち、基礎リズム 音階とアルペジオ、メロディー視奏

クォーター末試験評価方法

実技試験

パチやマレットの正しい持ち方、構え方、奏法を習得しているか。
 左右の音量や音色のバランス、正確なリズム、ミスなくメロディーが演奏できる。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2つ打ち、G-dur	2つ打ちの奏法 G-durの音階とアルペジオ、G-durのメロディー視奏
第2回	2つ打ちの加速と減速、G-dur	2つ打ちの加速と減速 G-durの音階とアルペジオ、G-durのメロディー視奏
第3回	アクセントと組み合わせ、e-moll	2つ打ちとアクセントの組み合わせ e-mollの音階とアルペジオ、e-mollのメロディー視奏
第4回	アクセントと組み合わせ、e-moll	2つ打ちとアクセントの組み合わせ e-mollの音階とアルペジオ、e-mollのメロディー視奏
第5回	クローズド・ロール、F-dur	クローズド・ロールの奏法 F-durの音階とアルペジオ、F-durのメロディー視奏
第6回	クローズド・ロール、F-dur	クローズド・ロールと強弱の変化 F-durの音階とアルペジオ、F-durのメロディー視奏
第7回	練習曲、d-moll	練習曲の演奏 d-mollの音階とアルペジオ、d-mollのメロディー視奏
第8回	テスト	2つ打ちの加速と減速、アクセント、<>を伴うロングロール、練習曲 音階とアルペジオ、メロディー視奏

学期末試験評価方法

実技試験

習得度(正しい奏法、音色やバランス、正確さ、テンポアップ)で評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(打楽器)	増田博之

科目概要

打楽器の基本として、スネアドラムとマリンバの奏法を習得します。
 スネアドラム:5~15打ち、ルーディメント等の技術を学びます。
 マリンバ:正しい奏法を習得し、音階とアルペジオ、メロディー視奏を通して読譜力や楽典的な知識を学びます。

到達目標

授業の目標を理解し、正しい奏法で演奏できる。
 スネアドラム:5~15打ち、ルーディメントを正確に演奏できる。
 マリンバ:音階とアルペジオを覚えて弾く。いろいろなメロディーを楽譜を見ながら演奏できる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	5つ打ち、D-dur	5つ打ち(in2,in3) D-durの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第2回	7・9つ打ち、h-moll	7・9つ打ち h-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第3回	13・15打ち、B-dur	13・15打ち B-durの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第4回	10・11打ち、g-moll	10・11打ち g-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第5回	フラム、A-dur,fis-moll	フラム A-dur,fis-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第6回	パラデイドル、Es-dur,c-moll	パラデイドル Es-dur,c-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第7回	テスト	5~15打ち、練習曲 音階とアルペジオ、メロディー視奏

クォーター末試験評価方法

実技試験

左右の音色・音量・バランス、リズムの正確さ、強弱への対応、ミスのない演奏等を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ルーディメント	ドラグ、レッスン25、フラムタップ等の演奏
第2回	E-dur,cis-moll	E-dur,cis-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第3回	ラフ、As-dur,f-moll	ラフ As-dur,f-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第4回	練習曲、H-dur,gis-moll	練習曲の演奏 H-dur,gis-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第5回	Des-dur,b-moll	練習曲の演奏 Des-dur,b-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第6回	Ges-dur,es-moll	練習曲の演奏 Ges-dur,es-mollの音階とアルペジオ、メロディー視奏
第7回	まとめ	1~15打ち、ロール練習曲 音階とアルペジオ、メロディー視奏
第8回	テスト	1~15打ち、ロール練習曲 音階とアルペジオ、メロディー視奏

学期末試験評価方法

実技試験

左右の音色・音量・バランス、リズムの正確さ、強弱への対応、ミスのない演奏等を評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングI(弦楽器)	小谷泉

科目概要

この授業では いろんな作品に使われている 弦楽器ならではの表現を基本的なものを大切に勉強していきます。春学期ではクラシック音楽の親しみやすい曲を使って どのような奏法を使えば曲の表現をしやすくなるかを追求していきます

到達目標

沢山の楽譜を見て素早く演奏でき さらに生き生きとしたアンサンブルが出来ることが到達目標です

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パッヘルベル カノンの演奏	まずは D-durの音階練習から始めます。ゆっくりと音を出していきます
第2回	パッヘルベル カノンの演奏	カノンの持っている曲の作りを奏法の変化をもとに つくりあげます
第3回	パッヘルベル カノンの演奏	いろいろなテンポで演奏し同じ箇所でもテンポによって弾き方を変えてみます
第4回	バッハ G線上のアリア	譜面が少し細かく書いてあるので低音の8分音符を基準に演奏してみます
第5回	バッハ G線上のアリア	フィンガリングとスラーの付け方を大切にしてフレーズを演奏します
第6回	バッハ G線上のアリア	通奏低音の音をしっかり聞けるバランスで演奏します
第7回	カノンとG線上のアリア	1人ずつの演奏でテストをします

クォーター末試験評価方法

パッヘルベルとバッハの大切な所をピックアップし 1人1人の演奏を評価します。また平常確認も大切にします

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章	まずは G-durの音階練習から始めます。第一楽章の前半をゆっくりおこないます
第2回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章 後半	後半は調性が変わるので他の音階も練習します
第3回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第一楽章	第一楽章を全体的に取り上げます。細かい部分の演奏法をおこないます
第4回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章	第二楽章の美しい旋律をまずはゆっくり演奏してみます
第5回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第二楽章 後半	後半は難しい部分が多いので確実に演奏できるようにします
第6回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第三楽章	メヌエットの基本的な弾き方から始めます
第7回	モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第三楽章	後半のトリオの演奏の後 メヌエットを仕上げます
第8回	モーツァルト アイネクライネ 1 2 3 楽章	アンサンブルとしてまとめます

学期末試験評価方法

中間評価は1人ずつの演奏を評価しましたが学期末は全員のアンサンブルとしてのチームワークを大切に演奏を目指します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(弦楽器)	小谷泉

科目概要

秋学期もクラシカルな曲を取り上げ また ポピュラー音楽の曲にもチャレンジして演奏現場で使われている奏法を多方面から研究します。

到達目標

全体のアンサンブルに加えて ポップス系の曲はリズムの取り方が大切です キレのある演奏を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーバーザレインボー	弦楽アンサンブルのアレンジによりおこないます
第2回	オーバーザレインボー	ルバート ポルタメントなど弦楽器特有の奏法を使います。
第3回	ドボルザーク ユーモレスク	メロディを美しく歌うことを大切にします
第4回	ドボルザーク ユーモレスク	中間部の転調したところを中心に演奏します
第5回	サティ ジムノペディ	小品を短い時間でまとめる練習をします
第6回	サティ ジュテヴ	ワルツのリズム感とメロディを華やかに演奏します
第7回	新曲のテスト	1人ずつ 初見演奏します 曲目は当日発表します

クォーター末試験評価方法

秋学期も前半は1人ずつのレベルアップをはかります

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リベルタンゴ	リズムをカッコよく弾けるように練習します
第2回	リベルタンゴ	メロディもグリッサンドなどを入れて演奏してみます
第3回	リベルタンゴ	メロディとリズムを総合的に表現する
第4回	情熱大陸	弦楽器プレイヤーが作曲した効果的な曲なので多彩な奏法を使って演奏する
第5回	情熱大陸	リズムとともに 長いフレーズのメロディや幅の広いヴィブラートをマスターします
第6回	バーンスタイン ウェストサイドストーリー	プロローグを演奏します 色々なリズム ハーモニーを弦楽器の表現で弾きます
第7回	バーンスタイン ウェストサイドストーリー	トレモロやスルタストなど 効果的な奏法の勉強をします
第8回	後半の三曲の中で全員による演奏をおこないます	全員による演奏

学期末試験評価方法

クラシック ポピュラーともに弦楽器ならではの表現を美しく躍動感に満ちた演奏ができるようにします

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (フルート)	野崎和宏

科目概要

全ての管楽器奏者にとって必要不可欠となるアンサンブル能力を養うための基本として、同属楽器同士の音程、テンポとリズムの合わせ方、音量バランスのとり方などの基礎訓練と、小編成から大編成までのアンサンブル楽曲に取り組み、アンサンブル演奏技術と知識を学びます。

到達目標

アンサンブルの様々な基本と特殊楽器の奏法、小～大編成のアンサンブル能力を身につけることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	年間計画、基礎的知識、レパートリーの説明
第2回	基礎演習1	音程:チューニング、ユニゾン、オクターブ
第3回	基礎演習2	音程:メロディー、コード、スケールの音程のとり方
第4回	基礎演習3	アインザッツ、テンポとリズム
第5回	特殊楽器	ピッコロ、アルト、バスフルート演習
第6回	特殊楽器	ピッコロ、アルト、バスフルート演習
第7回	発表	授業内発表会形式によるクォーター末試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、演奏技術の到達度、出席率、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎楽曲1	アンサンブルの基礎練習(古典カノン形式の二重奏曲)
第2回	基礎楽曲2	コードの響きのための演習 基礎課題、コラール小品
第3回	小・中編成演習課題1	メンデルスゾーン、リムスキー・コルサコフ など
第4回	小・中編成演習課題2	メンデルスゾーン、リムスキー・コルサコフ など
第5回	大編成アンサンブル1	指揮に合わせる合奏
第6回	大編成アンサンブル2	指揮に合わせる合奏
第7回	大編成アンサンブル3	指揮に合わせる合奏
第8回	発表、春学期末試験	サロンコンサートの企画

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、特殊楽器への対応、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(フルート)	野崎和宏

科目概要

演奏技術の修得と共に、学内の発表の場(室内楽コンサート)を経験して、公開演奏の進行とステージマナーを身につけます。

到達目標

小～大編成の様々なレパートリーを仕上げるのが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小編成古典アンサンブル1	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第2回	小編成古典アンサンブル2	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第3回	小編成古典アンサンブル3	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第4回	大編成楽曲1	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第5回	大編成楽曲2	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第6回	大編成楽曲3	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第7回	発表	授業内発表会形式によるクォーター末試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、演奏技術の到達度、出席率、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小・中編成レパートリー1	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第2回	小・中編成レパートリー2	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第3回	小・中編成レパートリー3	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第4回	小・中編成レパートリー4	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第5回	大編成楽曲4	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第6回	大編成楽曲5	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第7回	大編成楽曲6	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第8回	学年末試験	小・中・大編成の室内楽演奏

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、特殊楽器への対応、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (クラリネット)	中村めぐみ

科目概要

履修学生の人数に応じて、4重奏から8重奏ほどの同属楽器アンサンブル曲を仕上げしていきます。

バロック、古典、ロマン派など、時代も複数とりあげ、様式の勉強をするとともに、アンサンブルに必要な観察力、アンテナを磨き、共同作業により人間的な社会性も身につけていきます。

到達目標

仕上がりのレベルに達したら、なるべく多くの曲に触れ、読譜力の向上、複数的人数で空気を共有する喜び、観察力を身につけることなどを目標にし、個々のソロの勉強にも活かしていけることを目標とし、社会人になってもそれを活かしていけるようなスキルを会得していくこともあわせて目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの編成を決定し譜読みを開始します。	2重奏、3重奏など、小さい編成から手がけていきます。作曲家のタイプにもヴァリエーションをもたせます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。仕上がりによっては本番形式で録音します。
第4回	編成を変えて曲を決定します。	可能であれば新しい曲にとりかかります。特殊管にも挑戦していきたいです。
第5回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。特殊管のコツ、奏法も含めます。
第6回	レッスンをいたします。	曲を仕上げしていきます。
第7回	GP 本番 録音	GPにて各グループ自主的なディスカッションと本番をいたします。

クォーター末試験評価方法

--	--	--

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成を大きくしていき、曲を決定します。	履修人数に合わせて6~8重奏などから曲を決めて譜読みをします。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。特殊管のコツ、奏法も含めます。
第4回	レッスンをいたします。	クラリネットの合奏でしかだせないハーモニーをつくらせているかなどにこだわっていきます。
第5回	編成を変えて曲を決定します。	作曲された時代を新しくいき、テクニックもみがいていけることを考え、4重奏を中心に組みます。
第6回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。表現力をあげていきます。
第7回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。魅力的な演奏に仕上げっていきます。
第8回	GP 本番 録音	GPにてグループごとの自主的なディスカッションと本番をいたします。

学期末試験評価方法

出席率、楽器をあやつる能力、アンサンブル力、表現力、など演奏からわかる成果を評価いたします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(クラリネット)	中村めぐみ

科目概要

履修学生の人数に応じて、4重奏から8重奏ほどの同属楽器アンサンブル曲を仕上げていきます。
楽器の奏法、特殊管をあつかうこと、など他のレッスン(個人)や合奏授業にも活かしてゆける経験とともに自主的な音楽づくりをするためのスキルを身につけていきます。

到達目標

仕上がりのレベルに達したら、なるべく多くの曲に触れ、アンサンブルをするのに必要な信頼関係のもとに複数的人数でテンポ、ハーモニー、などを自主的にうみだしていくことを目標とし、今後の音楽、社会人としての公共性にも生かしてゆけるスキルを身につけられればと考えます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの編成を決定し譜読みを開始します	4重奏から8重奏までの、曲をきめていきます。作曲家のタイプにもヴァリエーションをもたせます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	曲の分析、アンサンブルをよくしていくのに必要なアンテナなど、さらにみがいていきます。
第4回	レッスンをいたします。	仕上がりによっては、新しいグループ、曲にしていきます。その際は録音会をいたします。
第5回	レッスンをいたします。	ひきつづき曲の分析、発音、音色、ハーモニーなどのレベルアップを目指します。
第6回	レッスンをいたします。	魅力的な演奏に仕上げていきます。細部こだわり視聴者にアピールの多い表現をつくります。
第7回	GP 本番 録音	GPにて各グループ自主的なディスカッションと本番をいたします。

クォーター末試験評価方法

--	--	--

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	室内楽発表会を見据えて、本格的にとり組める曲を決めます	学生がよりかがやけるような、ぞんぶんに力を発揮できるような曲を考え決めていきます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	曲の分析、アンサンブルに必要なアンテナ、クオリティーの高いモチーフのつくり方などにこだわっていきます。
第4回	レッスンをいたします。	仕上がりがはやいようなら、さらにレベルの高い曲に変更する可能性もあります。
第5回	レッスンをいたします。	ひきつづき曲の分析、アンサンブルの緻密さ、表現力の深さ、大きさにこだわります。
第6回	レッスンをいたします。	魅力的な演奏に仕上げていきます。細部にこだわり視聴者にアピールの多い表現をつくります。
第7回	レッスンをいたします。	アンサンブルのグループが演奏会出演可能団体数より多い場合のみオーディションをします。可能なかぎり全員出演できるよう考えます。
第8回	室内楽発表会に出演します。	積みかさねてきた成果を存分に発揮していただけるようサポートいたします。

学期末試験評価方法

出席率、楽器をあやつる能力、アンサンブル力、表現力、など演奏からわかる成果を評価いたします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (サクソフォン)	中村均一

科目概要
主に楽曲を①教則的な曲、②リサイタルピース、③アレンジ曲、④コンクールピースの4つのジャンルに振り分けてそれをを万遍なく取り上げて、実際の練習の進め方やコミュニケーションの取り方、楽曲をレパートリーにする技術を研究する。
到達目標
アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	練習の進め方	レクチャー
第2回	基礎的なアンサンブルカ1ハーモニー	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)テーマ ハーモニーのトレーニング法を取得する
第3回	基礎的なアンサンブルカ2対位法	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.1 対位法を理解する
第4回	基礎的なアンサンブルカ3声部の役割	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.2 声部毎の役割を理解する
第5回	基礎的なアンサンブルカ4装飾的な表現	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.4 装飾的な表現の仕組みをスコアから読み取って研究をする
第6回	基礎的なアンサンブルカ5テクニック	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.5 テクニカルなアンサンブルカを鍛える
第7回	確認	実技試験
クォーター末試験評価方法		
実技試験。「グラスノフ」を演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大1	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第2回	レパートリーの拡大2	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第3回	レパートリーの拡大3	バロック曲(小品リストより)
第4回	レパートリーの拡大4	ピアノ曲(小品リストより)
第5回	レパートリーの拡大5	「小四重奏曲」(フランセ))(他選択可)
第6回	レパートリーの拡大6	「ルーマニア民族の主題による組曲」(J. アブシル)
第7回	レパートリーの拡大7	「四重奏曲」(ラクール))(他選択可)
第8回	期末試験	実技試験
学期末試験評価方法		
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(サクソフォン)	中村均一

科目概要

レパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。

到達目標

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リサイタルピース、バロック曲	「サバの女王の入場」(ヘンデル)(他選択可)
第2回	同、ピアノ曲	「楽興の時」(シューベルト)(他選択可)
第3回	同、弦楽器曲1	「弦楽四重奏曲アメリカ」(ドヴォルザーク)(他選択可) I、II
第4回	同、弦楽器曲2	「弦楽四重奏曲アメリカ」(ドヴォルザーク)(他選択可) III、IV
第5回	同、現代1	「グラヴェとプレスト」(リヴィエ)(他選択可) グラヴェ
第6回	同、現代2	「グラヴェとプレスト」(リヴィエ)(他選択可) プレスト
第7回	期末試験	実技試験

クォーター末試験評価方法

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。
選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーディションピース1	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 1楽章、テーマを捉える、曲の仕組みを理解する。
第2回	オーディションピース2	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 1楽章、テンポとダイナミクスの効果を理解する。
第3回	オーディションピース3	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 2楽章、響きのブレンドとレガート
第4回	オーディションピース4	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 2楽章、緩徐楽章の演奏スタイルを捉える。
第5回	オーディションピース5	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 3楽章、フィナーレにふさわしいテクニックを鍛える。
第6回	オーディションピース6	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 3楽章、更にテンポを上げ、完成度を上げる。
第7回	本番前に確認すべき事	リハーサル 曲を仕上げる。
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

オーディションを想定して実技試験。
コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (木管五重奏)	多田 逸左久

科目概要

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。I・IIクォーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス ハイドン(1)	一年間の授業指針を説明 ハイドン: 嬉遊曲 第1・2楽章
第2回	ハイドン(2)	ハイドン: 嬉遊曲 第3・4楽章
第3回	ダンツィ(1)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第1楽章
第4回	ダンツィ(2)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第2楽章
第5回	ダンツィ(3)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第3楽章
第6回	ダンツィ(4)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第4楽章
第7回	Iクォーターの総括	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ライヒャ(1)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第1楽章
第2回	ライヒャ(2)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第2楽章
第3回	ライヒャ(3)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第3楽章
第4回	ライヒャ(4)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第4楽章
第5回	タファネル(1)	タファネル: 木管五重奏曲 I
第6回	タファネル(2)	タファネル: 木管五重奏曲 II
第7回	タファネル(3)	タファネル: 木管五重奏曲 III
第8回	IIクォーターの総括	授業内発表会

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽 II (木管五重奏)	多田 逸左久

科目概要

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミヨー(1)	ミヨー: ルネ王の暖炉 I・II
第2回	ミヨー(2)	ミヨー: ルネ王の暖炉 III・IV・V
第3回	ミヨー(3)	ミヨー: ルネ王の暖炉 VI・VII
第4回	イベール(1)	イベール: 三つの小品 I
第5回	イベール(2)	イベール: 三つの小品 II
第6回	イベール(3)	イベール: 三つの小品 III
第7回	Ⅲクォーターの総括	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セルヴァンスキー(1)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 I
第2回	セルヴァンスキー(2)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 II
第3回	セルヴァンスキー(3)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 III
第4回	ヒンデミット(1)	ヒンデミット: 小室内楽曲 I
第5回	ヒンデミット(2)	ヒンデミット: 小室内楽曲 II・III
第6回	ヒンデミット(3)	ヒンデミット: 小室内楽曲 IV
第7回	ヒンデミット(4)	ヒンデミット: 小室内楽曲 V
第8回	一年間の総括	室内楽発表会(パリオホール)

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I(ホルン)	並木博美

科目概要
ホルンの演奏家として必要な合奏能力、移調読みを含めた読譜力、楽曲の構造の理解力を高めていきホルンのみの編成による室内楽作品或いはオーケストラの作品中の重要なパートを時代毎に選びそれらの演奏法並びに作品分析力、演奏力などの向上を養います。
到達目標
リズムを理解し演奏に結び付ける力、和音の種類を理解し音程を合わせる力、作品の中での自分のパートの役割を理解する力、メロディーか伴奏なのか見分けて演奏に反映させて行く力などを向上させていきます。また平易な二重奏・三重奏・四重奏などの作品の初見力の向上を目指します。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	ホルンのアンサンブルの歴史についてお話してこれから学んでいく作品や編成について決めてまいります。
第2回	平易な二重奏と四重奏のアプローチ	ホルンによる二重奏と四重奏の平易なアルバムの中から技術的にあった作品を選び演奏してみましょう。
第3回	平易な二重奏と四重奏の演奏	第2回で演奏してみた作品を完成して行くために必要なこと(リズム、音程、ハーモニー、メロディー)に着目して形にしていきます。
第4回	狩りの楽器としてのホルンについて(その1)	1600年頃より狩りの信号ラッパとして使われていたホルンですが今でも使われています。その信号ラッパとしての音楽を演奏します。
第5回	狩りの楽器としてのホルン音楽の発展(その2)	ホルンが次第に発展して森で演奏される音楽として書かれたダイゼンロートの「ダンピエール伯爵」という作品を演奏します。
第6回	室内楽作品として地位を得たホルンの作品	室内(家庭)で演奏される作品として今もよく演奏される作品としてA.ライヒャのホルントリオを演奏してみましょう。
第7回	ホルントリオに触れてみます。	A.ライヒャのホルントリオを抜粋ですが深く掘り下げ演奏し研究してまいります。移調読みについても学びます。

クォーター末試験評価方法
授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、演奏力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価してまいります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウイーンの近代の作品を演奏しましょう。	A.ブンデラーのアルバムの10曲のホルンカルテットを演奏してみましょう。ウイーンの音楽スタイルや様々な舞曲が含まれています。
第2回	ドイツの近代の作品を演奏しましょう。	ホメリウスの作品を演奏してみましょう。本格的な音楽作品として評価されているものです。今回は第1楽章を練習します。
第3回	ホメリウスの作品を完成させてみましょう。	ホメリウスの作品。今回は第1楽章の続きと第2楽章ノ譜読み方分析を初めていき練習に繋がります。
第4回	ホメリウス全曲のまとめです。	ホメリウスの第3楽章を完成させたのち全楽章の演奏をまとめていきましょう。
第5回	ウイーンバルトホルン合奏団の歴史と作品	1800年代から現在に至るまで続くホルンだけの合奏団の生み出した作品の中から代表的なものを演奏していきます。
第6回	1800年代の二重奏を演奏します。	1800年代に作曲された代表的な二重奏オットー・ニコライの作品集から作品を選び二人ずつ組んで演奏を完成させていきます。
第7回	1800年代の三重奏を演奏します。	1800年代のA.ライヒャの作品を演奏し演奏法を研究していきましょう。移調読みはin Es,in Eが課題となります。
第8回	春学期のまとめです。	今まで演奏してきた作品の中から一曲ずつ選び教室にて演奏の成果を披露した後に反省点を見つけ出し今後の方向性を見出します。

学期末試験評価方法
出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価してまいります。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(ホルン)	並木博美

科目概要
ホルンのみによる室内楽作品を近代から現代に至る代表的なものを取り上げ、それらの作品についての時代的背景と作品の意義について学び演奏法、解釈について研究しつつ形にまとめて行くプロセスを大切にしつつ演奏をまとめレパートリーにしていきます。
到達目標
自分たちの演奏する作品について時代的な意義をどれだけ理解した上に楽譜を読み取り演奏にそれらを反映させ技術的な問題を克服していけるか、また互いにどれだけ聴き合い良いアンサンブルと、より高度な演奏に全体をまとめ上げて行けるようになるかが目標です。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フランス近代の代表的な作品(その1)	E.ボザのカルテットの譜読みを初めていきます。今回は第1楽章から始めます。ヘ音記号の読み取りが重要です。
第2回	フランス近代の代表的な作品(その2)	E.ボザのホルンカルテットの第1楽章をまとめていきます。このパートの技術的難易度が高いのであらかじめ練習が必要となってきます。
第3回	フランス近代の代表的な作品(その3)	E.ボザのカルテットの第1楽章の仕上げと第2楽章の練習をしていきます。テンポの揺れ動きが重要な課題です。
第4回	フランス近代の代表的な作品(その4)	E.ボザのカルテットの第2楽章のまとめと第3楽章の練習をしていきます。2楽章では低音域の練習が必要です。
第5回	フランス近代の代表的な作品(その5)	E.ボザのカルテットの第3楽章のまとめと第4楽章の練習をしていきます。4楽章は低音域とストップ奏法の練習が必要です。
第6回	E.ボザの演奏のまとめ	E.ボザのカルテットの第4楽章をまとめその後全楽章を組曲形式で演奏してまとめていきます。
第7回	E.ボザのカルテットの演奏による試験	今まで創り上げてきたボザのカルテットを実際に演奏してそれぞれの理解度、演奏の精度が重要となります。

クォーター末試験評価方法
作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力と出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	H.ユーリセンの作品(その1)	ロマン派時代の作風で現代の作曲家H.ユーリセンが書いているシャンソマニエという四重奏の作品を取り上げます。
第2回	H.ユーリセンの作品(その2)	シャンソマニエのアンサンブルの不具合を調節・整理し楽曲として演奏が可能となるように目指します。
第3回	T.ディッカウの作品(その1)	アメリカの作曲家T.ディッカウの作品、組曲「トイボックス」全8曲の演奏ができるように練習して行きます。第1曲と第2曲第3曲です。
第4回	T.ディッカウの作品(その2)	組曲「トイボックス」の第3曲第4曲第5曲の練習を行い完成させて行きます。行進曲風・バラード風、ネイティブ風舞曲という構成です。
第5回	T.ディッカウの作品(その3)	組曲「トイボックス」の第6曲第7曲第8曲の練習を行ない全曲を通して曲の完成を目指します。
第6回	E.ザイフリートの作品(その1)	オーストリア放送交響楽団のメンバーのために描かれた5重奏の名作です。全5楽章の作品です。第1楽章を完成させます。
第7回	E.ザイフリートの作品(その2)	第2、3楽章をリハーサルして完成の形に持って行きます。第2楽章は「狩の行進曲」、第3楽章は「スケルツォ」です。
第8回	新曲をその場でリハーサルして組み立てます。	あらかじめ受講者全員に渡しておいた新曲を組み立てて演奏して採点いたします。

学期末試験評価方法
個々のパートに対する読譜力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (トランペット)	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(トランペット)	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (トロンボーン)	山口隼士

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(トロンボーン)	山口隼士

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (ユーフォニアム・チューバ)	齋藤充

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ (ユーフォニアム・チューバ)	齋藤充

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (金管五重奏)	宮澤聰宏

科目概要

本室内楽クラスは、金管五重奏の形式で様々な楽曲を取り上げます。
音程、アーティキュレーション、サウンド、リズムなどの統一トレーニングを中心に音楽性・表現力の向上を目指します。

到達目標

アンサンブルテクニックとパフォーマンスプラクティスの理解度

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の説明
第2回	金管五重奏のグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング1	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング2	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて様々な角度からコーチングを行う
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて様々な角度からコーチングを行う
第7回	授業内発表	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	アンサンブルメンバーのグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング3	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング4	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第7回	楽曲コーチング3	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第8回	授業内発表	学期末試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(金管五重奏)	宮澤聰宏

科目概要

本室内楽クラスは、金管五重奏の形式で様々な楽曲を取り上げます。
音程、アーティキュレーション、サウンド、リズムなどの統一トレーニングを中心に音楽性・表現力の向上を目指します。

到達目標

アンサンブルテクニックとパフォーマンスプラクティスの理解度

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	金管五重奏のグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング5	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング6	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、フレージングや表現力について学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、フレージングや表現力について学ぶ
第7回	授業内発表	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	アンサンブルメンバーのグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング7	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング8	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第7回	楽曲コーチング3	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第8回	授業内発表	学期末試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽 I (打楽器)	増田博之

科目概要

打楽器アンサンブルで大切なセッティングから、合図の出し方・受け方、バチの動作(アインザッツ)などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテなど完成度の高いアンサンブルを作ることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	基本的なアンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	基本的なアンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	基本的なアンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	基本的なアンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	基本的なアンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	アンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	アンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	アンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	アンサンブル⑤	オリジナル作品の練習、スコアの確認⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅱ(打楽器)	増田博之

科目概要

打楽器アンサンブルで大切なセッティングから、合図の出し方・受け方、バチの動作(アインザッツ)などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテなど完成度の高いアンサンブルを作ることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	アンサンブルの練習⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽 I	大井剛史

科目概要
吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。
到達目標
合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します
第2回	曲の理解、課題の確認	課題となっている曲の合奏を行い、この先の進行予定を把握する
第3回	合奏技術の向上①	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上②	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上③	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上④	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑤	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
クォーター末試験評価方法		
出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス 合奏技術の向上⑥	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第2回	合奏技術の向上⑦	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第3回	合奏技術の向上⑧	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上⑨	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上⑩	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上⑪	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑫	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第8回	合奏技術の向上⑬	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
学期末試験評価方法		
出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽Ⅱ	大井剛史

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。

到達目標

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します
第2回	曲の理解、課題の確認	課題となっている曲の合奏を行い、この先の進行予定を把握する
第3回	合奏技術の向上①	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上②	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上③	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上④	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑤	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

クォーター末試験評価方法

出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス 合奏技術の向上⑥	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第2回	合奏技術の向上⑦	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第3回	合奏技術の向上⑧	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上⑨	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上⑩	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上⑪	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑫	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第8回	合奏技術の向上⑬	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

学期末試験評価方法

出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽 I	武田晃

科目概要
吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。
到達目標
合奏の音作りの基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します。
第2回	合奏能力の把握と課題の確認	読譜能力とアンサンブル能力を把握し、学んでいく上での課題を明らかにし、今後の目標を示します。
第3回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典1	行進曲と吹奏楽の古典的作品を通して、拍子感と基本的な表現力を学びます。
第4回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典2	拍子感と基本的表現力に加えて、バランスの調整及びアーティキュレーションの統一について学びます。
第5回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典3	前回までの学習事項に加えて、フレージングと表現力を学び、合奏の仕上げます。
第6回	新たなレパートリーの開拓1	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の合奏を通して、少人数のアンサンブルについて学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓2	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の楽曲の録音を通して、少人数のアンサンブル能力を向上させます。
クォーター末試験評価方法		
アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品1	吹奏楽の特徴を生かした20世紀中期の作品と管弦楽曲からの編曲作品を通して、曲のスタイルと表現法を学びます。
第2回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品2	バランスの調整及びアーティキュレーションの統一を図り、まとまりのあるアンサンブルを生み出すことを学びます
第3回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品3	フレージングとアゴーギクについて学び、曲の表現力をさらに高めることを学びます。
第4回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品4	前期発表会に向け、プログラム全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第5回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品5	1クォーター及び2クォーターで学んだ楽曲による前期発表会を行います。
第6回	レパートリーの拡充1	スタンダードマーチ及び20世紀初中期の作品の中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第7回	レパートリーの拡充2	それぞれの作品の作曲の背景と曲のスタイルについて合奏を通して学びます。
第8回	レパートリーの拡充3	現在の吹奏楽のレパートリーの特徴と表現法について学びます。
学期末試験評価方法		
アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽Ⅱ	武田晃

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を旨とする者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期～現代の吹奏楽曲(独奏曲を含む)を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。

到達目標

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握できる能力を高め、高いレベルの合奏を実現することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓3	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品を通して、管楽器による表現法の向上について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓4	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品の録音を通して、アンサンブル能力と表現力をさらに向上させます。
第3回	新たなレパートリーの開拓5	作曲コンクールに応募された新作の合奏を通して、参考演奏のない状態からの音楽作りについて学びます。
第4回	レパートリーの拡充4	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第5回	レパートリーの拡充5	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、アンサンブル能力の向上を重点に学びます。
第6回	レパートリーの拡充6	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、表現力の向上を重点に学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓6	これまでにない編成の楽曲を通して、柔軟なアンサンブル能力の習得について学びます。

クォーター末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓7	これまでにない編成の楽曲の表現の仕方について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓8	これまでにない編成の楽曲を通して、前例にとらわれない柔軟なアンサンブル能力と表現能力について学びます。
第3回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品1	高い能力を要求される現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法について学びます。
第4回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品2	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについて学びます。
第5回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品3	現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法をさらに向上させます。
第6回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品4	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについてさらに向上させます。
第7回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品5	ウインター・バンドフェスティバルでの演奏を前に、全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第8回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品6	1年間の授業の総仕上げとして、演奏能力だけではなく質の高いコンサートのありかたについて学びます。

学期末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ポップス合奏 I	織田浩司 熱田公紀

科目概要

合奏を通してポップス音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

到達目標

Jazzの基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	Jazzについての説明と、パート決め、係決めを行い、初級曲を合奏します。
第2回	Jazzスタイルの基本1	アタックとリリース、アフタービートについて勉強します。
第3回	Jazzスタイルの基本2	Jazzのアーティキュレーションについて勉強します。
第4回	Jazzスタイルの基本3	Jazzのシンコペーションについて勉強します。
第5回	Jazzスタイルの基本(復習)	Jazzの基本1～3の復習 発表曲の復習を行います。
第6回	ラテンとロックスタイル	イーブンのリズム、アーティキュレーションの勉強をします。
第7回	発表会にむけて	曲目決定、本番までのリハーサルスケジュール確認

クォーター末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発表会にむけて1	発表会での演奏曲の練習
第2回	発表会にむけて2	発表会での演奏曲の練習
第3回	発表会にむけて3	発表会での演奏曲の練習 構成確認
第4回	発表会にむけて4	発表会での演奏曲の練習 仕上げ
第5回	最終リハーサル	ステージ演出確認
第6回	発表会検証	発表会の音源、映像を見ながら自己分析
第7回	レパートリー拡大1	スタンダードにふれる(スウィング1)
第8回	レパートリー拡大2	スタンダードにふれる(スウィング2)

学期末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ポップス合奏Ⅱ	織田浩司 熱田公紀

科目概要

合奏を通してポップス音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

到達目標

インプロヴァイスを学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大3	スタンダードにふれる(ラテンジャズ1)
第2回	レパートリーの拡大4	スタンダードにふれる(ラテンジャズ2)
第3回	インプロヴァイスしてみよう1	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第4回	インプロヴァイスしてみよう2	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第5回	インプロヴァイスしてみよう3	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第6回	発表会にむけて1	発表会にむけて選曲/音だし
第7回	発表会にむけて2	発表会にむけて選曲/音だし

クォーター末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発表会にむけて3	発表会での演奏曲の練習
第2回	発表会にむけて4	発表会での演奏曲の練習
第3回	発表会にむけて5	発表会での演奏曲の練習
第4回	発表会にむけて6	発表会での演奏曲の練習 構成確認
第5回	発表会にむけて7	発表会での演奏曲の練習 仕上げ
第6回	コンサート演出1	ステージ演出の構築1
第7回	コンサート演出2	ステージ演出の構築2
第8回	最終リハーサル	ステージ演出確認

学期末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	オーケストラA I	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。
さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第2回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第7回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。

クォーター末試験評価方法

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第2回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第6回	本番	「コンチェルトのタベ」演奏会 本番(バリオホール)
第7回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第8回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	オーケストラAⅡ	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。
さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	分奏	「オータムコンサート」準備 分奏で細部を詰めます。
第3回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	本番	「オータムコンサート」演奏会 本番(パリオホール)

クォーター末試験評価方法

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第3回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第4回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第5回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	合奏	「コンチェルトの夕べ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第8回	本番	「コンチェルトの夕べ」演奏会 本番(パリオホール)

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	弦楽合奏 I	舘市正克

科目概要

弦楽合奏の特有な表現を具体化します。
弦楽合奏における基本となる奏法を着手します。

到達目標

弦楽アンサンブルの基礎的な知識を身につける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の学習計画を理解する
第2回	弦楽合奏について	主に各楽器の調弦(チューニング)について
第3回	課題曲 I	曲の確認のため、通し練習
第4回	課題曲 I	作曲家の時代による様式を学ぶ
第5回	課題曲 I	音程とボウイングについて
第6回	課題曲 I	表現力の可能性について
第7回	試験	確認のためのテスト

クォーター末試験評価方法

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器について	弦楽器の使い方
第2回	基礎 I	課題曲を選定
第3回	基礎 I	ボウイングの決定
第4回	基礎 II	楽曲の様式と意図
第5回	基礎 II	音程とリズム
第6回	発表に向けて	主旋律、副旋律、伴奏などについて
第7回	発表に向けて	楽曲の全体像を捉える
第8回	春の総括	確認のためのテスト

学期末試験評価方法

出席率と理解度を主に総合評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	弦楽合奏Ⅱ	舘市正克

科目概要

多様なボウイングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標

実習を通して多くの奏法を習得する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	学習計画を理解する
第2回	音階	音階とアルペジオの重要性について
第3回	課題曲Ⅱ	課題曲を選定
第4回	課題曲Ⅱ	弓づけにおける表現の違いについて
第5回	課題曲Ⅲ	課題曲を選定
第6回	課題曲Ⅲ	音楽の意図を理解する
第7回	試験	確認のためのテスト

クォーター末試験評価方法

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎Ⅰ	課題曲を選定
第2回	基礎Ⅱ	曲の全体像を捉える
第3回	応用Ⅰ	様式の理解と弓づけの決定
第4回	応用Ⅰ	純正音程とリズム
第5回	応用Ⅱ	合奏の応用
第6回	応用Ⅱ	楽曲の意図について
第7回	発表の準備	テンポの捉え方と音の処理を理解知る
第8回	秋の総括	確認のためのテスト

学期末試験評価方法

一年を振り返り、アンサンブル能力などの全体の成果を総合評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンスバンド I	石田 修一

科目概要

- ・吹奏楽編成による合奏能力、アンサンブルテクニクの向上
- ・吹奏楽ならではの多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究
- ・吹奏楽編成に歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究

到達目標

吹奏楽における合奏能力(チューニング、リズム、ハーモニートレーニング)、アンサンブルテクニクを身に付けます。また、舞台表現の追及やバリエーションを研究し、音楽家としてのコーディネート力、受難な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業内容やホール使用の説明 自己紹介、係り決め
第2回	セッティング、サウンドトレーニング	基礎合奏(チューニング・バランス・スケール・ハーモニーなど)
第3回	サウンドの調和(ブレンド)への意識	基礎合奏/コラール
第4回	音価、リズム、ハーモニーの統一	基礎合奏/コラール/楽曲初見
第5回	ユニゾン統一、リズム処理、 ハーモニー解釈・役割	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第6回	音色、バランス、 リズム・テンポ感、フレーズ統一	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第7回	ダイナミクス、バランス、 音程、音形、ハーモニー	基礎合奏/コラール/楽曲練習

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は基本的な合奏能力の習得、吹奏楽のサウンド作りの理解、基礎合奏から楽曲演奏へ発展することが出来ているか、を評価対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音色の変化、コントラスト、速度変化	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第2回	速度設定、ニュアンス、 アゴギク、振付の基本	楽曲・演技
第3回	セクション間のアンサンブル、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第4回	全体アンサンブル、様式感、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第5回	細部の仕上げ	総合リハーサル
第6回	演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性	総合リハーサル
第7回	通し練習、総合リハーサル	総合リハーサル
第8回	本番<パリオホール>	SUMMER BAND FESTIVAL

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は吹奏楽のサウンド作りの理解、アンサンブル能力、音楽に合わせた視覚効果の理解とその取組、を評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンスバンドⅡ	石田修一

科目概要

- ・吹奏楽編成による合奏能力、アンサンブルテクニックの向上
- ・吹奏楽ならではの多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究
- ・吹奏楽編成に歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究

到達目標

吹奏楽における合奏能力(チューニング、リズム、ハーモニートレーニング)、アンサンブルテクニックを身に付けます。また、舞台表現の追及やバリエーションを研究し、音楽家としてのコーディネート力、受難な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	SUMMER BAND FESTIVALの反省・確認 WINTER BAND FESTIVAL へ向けて
第2回	ウインドコンサートの楽曲考案①	楽曲初見練習
第3回	ウインドコンサートの楽曲考案②	楽曲譜読み練習
第4回	ウインドコンサートの構成考案①	楽曲・構成
第5回	ウインドコンサートの構成考案②	楽曲・構成
第6回	音色、バランス、 リズム・テンポ感、フレージング統一	楽曲
第7回	ダイナミクス、バランス、 音程、音形、ハーモニー	楽曲

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では1,2クォーターで身に付けた基礎力を基にし、レパートリーの習得・拡張を身に付ける。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音色の変化、コントラスト、速度変化	楽曲
第2回	速度設定、ニュアンス、 アゴーギク、振付の基本	楽曲・演技
第3回	セクション間のアンサンブル、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第4回	全体アンサンブル、様式感、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第5回	細部の仕上げ、照明合わせ	総合リハーサル
第6回	演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合 性、照明合わせ	総合リハーサル
第7回	通し練習、総合リハーサル	総合リハーサル
第8回	本番<パリオホール>	WINTER BAND FESTIVAL

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では一年間身に付けた演奏力・演技力を、表現者として聴衆へとアピールすることを評価の対象とする。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	マーチングバンド I	山田 江味

科目概要

基礎動作を導入とし、フォーメーションやカラーガードを盛り込んだショーを制作していきます。また楽曲演奏をしながらの動作、視覚との調和など、総合的に学習します。

到達目標

パレード・ドリル・ショー・式典依頼に対応できる、フォーメーションやカラーガード(特別講座対応)を習得することを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入:オリエンテーション	スタッフ決め・組織作り
第2回	基礎トレーニング①	基礎動作(ウォームアップ・基本トレーニング)
第3回	基礎トレーニング②	基礎動作(個人およびグループでのトレーニング)
第4回	基礎トレーニング③	スカードでの動きを考え、実践
第5回	カラーガード①	カラーガードの基礎トレーニング
第6回	カラーガード②	カラーガード創作①
第7回	カラーガード③	カラーガード創作②

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハーサルテクニック①	ステージドリル練習①
第2回	リハーサルテクニック②	ステージドリル練習②
第3回	リハーサルテクニック③	ステージドリル練習③
第4回	リハーサルテクニック④	ステージドリル練習④
第5回	授業内発表会	本番までのゲネプロ・運営の実践
第6回	BAND FESTIVALへ向けて①	BAND FESTIVALへ向けてのトレーニング&ミーティング
第7回	BAND FESTIVALへ向けて②	ショーのまとめ
第8回	BAND FESTIVAL	本番

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	マーチングバンドⅡ	山田 江味

科目概要

基礎動作を導入とし、フォーメーションやカラーガードを盛り込んだショーを制作していきます。また楽曲演奏をしながらの動作、視覚との調和など、総合的に学習します。

到達目標

パレード・ドリル・ショー・式典依頼に対応できる、フォーメーションやカラーガード(特別講座対応)を習得することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	BAND FESTIVAL反省	反省および、WINTER BAND FESTIVALへの話し合い
第2回	カラーガード④	カラーガード創作③
第3回	カラーガード⑤	カラーガード創作④
第4回	ステージドリル楽曲・合奏(初見)	ステージドリル用楽曲練習①
第5回	ステージドリル楽曲・合奏(譜読み)	ステージドリル用楽曲練習②
第6回	ステージドリル楽曲・合奏	ステージドリル用楽曲練習③
第7回	リハーサルテクニック⑤	ステージドリル練習⑤

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハーサルテクニック⑥	ステージドリル練習⑥
第2回	リハーサルテクニック⑦	ステージドリル練習⑦
第3回	リハーサルテクニック⑧	ステージドリル練習⑧
第4回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて①	BAND FESTIVALへ向けてのトレーニング&ミーティング
第5回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて②	ショーのまとめ
第6回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて③	照明合わせを含む総合リハーサル
第7回	WINTER BAND FESTIVAL	本番
第8回	反省	映像の鑑賞、スタッフごとの反省、他意見交換

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	専攻レパートリー研究Ⅰ	福島 弘和

科目概要

・吹奏楽、マーチング指導に必要なレパートリーを年代に基づいて研究していきます。
 ・授業形式は、学生の実習(発表)を主体とし、作品、作曲者、音源、出版等を調査、1人ずつ資料を作成しプレゼンをしていきます。

到達目標

将来指導を行うことも考え、専門知識をプレゼンできる能力を養う。人に情報を伝えていくことの大切さ、難しさを体験を通して身につけていく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入: 楽曲認識度の確認	今後の授業組み立ての参考に、各個人の知識等を把握するため、アンケート式で質問をし、初回授業の導入とします。
第2回	世界の行進曲①	「日本の行進曲」について①、作品、作曲者、音源、出版等を調査、1人ずつ資料を作成しプレゼンをしていきます。
第3回	世界の行進曲②	「日本の行進曲」について②
第4回	世界の行進曲③	「アメリカの行進曲」について①
第5回	世界の行進曲④	「アメリカの行進曲」について②
第6回	世界の行進曲⑤	「ヨーロッパの行進曲」について①
第7回	世界の行進曲⑥	「ヨーロッパの行進曲」について②

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・プレゼン資料作成およびプレゼン内容を30%とします。
 評価内容は、1曲でも多くのレパートリー習得することを目的とするため、出席率を過半数にしています。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷①	「日本の吹奏楽」について①、歴史の変遷や吹奏楽団について調査、1人ずつ資料を作成しプレゼンをしていきます。
第2回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷②	「日本の吹奏楽」について②
第3回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷③	「アメリカの吹奏楽」について①
第4回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷④	「アメリカの吹奏楽」について②
第5回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷⑤	「アメリカの吹奏楽」について③
第6回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷⑥	「ヨーロッパの吹奏楽」について①
第7回	世界の吹奏楽団と歴史の変遷⑦	「ヨーロッパの吹奏楽」について②
第8回	試験	これまでの14回の内容を理解・習得出来ているか、知識習得の確認として試験をします。

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・試験30%・プレゼン資料作成およびプレゼン内容を20%とします。
 評価内容は、1クォーター同様にレパートリー習得が目的のため、出席率を重視します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	専攻レパートリー研究Ⅱ	福島 弘和

科目概要

春楽器でのレパートリー習得や歴史的変遷の理解に加え、スクールバンドの現場で必要とされる基本的な知識、レパートリー等に触れていきます。

到達目標

理解や知識の習得に加え、指導現場に対応出来る様、自ら資料を作成(音源・映像の収集)し、それを自己発信(プレゼンテーション能力)出来る力を養う事を目的とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	吹奏楽スタンダードレパートリー①	「邦人作品」について①、作品、作曲者、音源、出版等を調査、1人ずつ資料を作成しプレゼンをしていきます。
第2回	吹奏楽スタンダードレパートリー②	「邦人作品」について②
第3回	吹奏楽スタンダードレパートリー③	「アメリカの作品」について①
第4回	吹奏楽スタンダードレパートリー④	「アメリカの作品」について②
第5回	吹奏楽スタンダードレパートリー⑤	「アメリカの作品」について③
第6回	吹奏楽スタンダードレパートリー⑥	「ヨーロッパの作品」について①
第7回	吹奏楽スタンダードレパートリー⑦	「ヨーロッパの作品」について②

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・プレゼン資料作成およびプレゼン内容を30%とします。
評価内容は、1曲でも多くのレパートリー習得することを目的とするため、出席率を過半数にしています。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究①	「基礎合奏メソッド」の研究①
第2回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究②	「基礎合奏メソッド」の研究②
第3回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究③	「スタンダードレパートリー」について①、作品、作曲者、音源、出版等を調査、1人ずつ資料を作成しプレゼンをしていきます。
第4回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究④	「スタンダードレパートリー」について②(ポップス)
第5回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究⑤	「吹奏楽コンクール自由曲レパートリー」について①(邦人作曲家オリジナル作品)
第6回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究⑥	「吹奏楽コンクール自由曲レパートリー」について②(海外作曲家オリジナル作品)
第7回	スクールバンドのレパートリーとその指導法研究⑦	「吹奏楽コンクール自由曲レパートリー」について③(アレンジ作品)
第8回	試験	これまでの14回の内容を理解・習得出来ているか、知識習得の確認として試験をします。

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・試験30%・プレゼン資料作成およびプレゼン内容を20%とします。
評価内容は、3クォーター同様にレパートリー習得が目的のため、出席率を重視します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽概論 I	高梨 裕久

科目概要

- ・吹奏楽編成で使用される楽器についての基礎知識習得
- ・日本の吹奏楽史や、現在の吹奏楽現場で必要とされる知識習得
- ・編成とサウンドの関連について(ギャルド・レピュブリケーヌ、イーストマンウインドアンサンブル等)

到達目標

- ・歴史、専攻楽器以外など、吹奏楽指導者として必要な知識を身に付けます。
- ・吹奏楽編成において、構造の異なる楽器や人数とサウンドの関わりについて理解します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	これまでの吹奏楽との関わりや基礎知識の確認	今後の授業組み立ての参考に、各個人の知識等を把握するため、アンケート式で質問をし、初回授業の導入とします。
第2回	ディスカッションから、客観的に物事を考える	第1回目の授業で行ったアンケートを基に、その内容について意見交換等を交えディスカッション式で進行します。
第3回	編成の違いによる吹奏楽サウンドの特徴について①	各編成によるサウンドの特徴を、音源鑑賞や楽器編成の研究から、その理由を理解していきます。
第4回	日本の吹奏楽史から現状への発展、それらの背景について	日本の吹奏楽の始まりとその背景はどのようなきっかけだったか、そこどのような指導者や教育がされたかを理解します。
第5回	JAPAN BAND CLINICへの参加①	JAPAN BAND CLINIC(静岡県浜松市)での演奏会鑑賞、講座受講を授業とします。
第6回	JAPAN BAND CLINICへの参加②	JAPAN BAND CLINIC(静岡県浜松市)での演奏会鑑賞、講座受講を授業とします。
第7回	レポート提出	JAPAN BAND CLINICでの研修記録を提出します。

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席50%・理解度30%・レポート20%とします。
 評価内容は、毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として評価対象とします。また、JAPAN BAND CLINICでの内容をレポート提出し、内容の充実・完成度を評価対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	吹奏楽編成で使用される楽器について①	吹奏楽の標準的な編成で使用される木管楽器の“名称(アルファベット表記)”“調性”“音域”他、特性や構造を理解していきます。
第2回	吹奏楽編成で使用される楽器について②	吹奏楽の標準的な編成で使用される木管楽器の“名称(アルファベット表記)”“調性”“音域”他、特性や構造を理解していきます。
第3回	吹奏楽編成で使用される楽器について③	吹奏楽の標準的な編成で使用される金管楽器の“名称(アルファベット表記)”“調性”“音域”他、特性や構造を理解していきます。
第4回	吹奏楽編成で使用される楽器について④	吹奏楽の標準的な編成で使用される金管、打楽器の“名称(アルファベット表記)”“調性”“音域”他、特性や構造を理解していきます。
第5回	移調楽器の記譜と実音の音域について	移調楽器の記譜表記と実音の音域差について、理解していきます。
第6回	音域表の作成①	吹奏楽の標準的な編成で使用される管楽器・弦楽器の音域を、ピアノ鍵盤のどこに当てはまるかを記入し理解していきます。
第7回	音域表の作成②	吹奏楽の標準的な編成で使用される管楽器・弦楽器の音域を、ピアノ鍵盤のどこに当てはまるかを記入し理解していきます。
第8回	音域表の提出	第1回～第4回の内容のテストを行います。また第6回、第7回で作成した音域表も提出とします。

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・理解度40%・音域表の作成10%とします。
 評価内容は、毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として評価対象とします。また、後半で取り組んだ音域表が正しく書けているか(理解)を評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽概論Ⅱ	高梨 裕久

科目概要

- ・吹奏楽編成で使用される楽器についての基礎知識習得
- ・日本の吹奏楽史や、現在の吹奏楽現場で必要とされる知識習得
- ・吹奏楽検定3級の受験

到達目標

- ・歴史、専攻楽器以外など、吹奏楽指導者として必要な知識を身に付けます。
- ・吹奏楽検定3級(一般社団法人日本管打・吹奏楽学会)の合格を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フルートについて①	発音の異なる木管楽器からフルートを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第2回	フルートについて②	発音の異なる木管楽器からフルートを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第3回	フルートについて③	発音の異なる木管楽器からフルートを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第4回	クラリネットについて①	発音の異なる木管楽器からクラリネットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第5回	クラリネットについて②	発音の異なる木管楽器からクラリネットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第6回	クラリネットについて③	発音の異なる木管楽器からクラリネットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第7回	フルート、クラリネットについて(試験)	第1回～第6回で取り上げた内容について、知識は身につけているか、楽器の構造や発音を理解しているか、筆記と演奏で試験をします。

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席60%・試験内容および理解度40%とします。
 評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、評価対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	木管楽器について(試験)の確認	3クォーターの第7回目の「木管楽器について(試験)」を返却し、内容の確認、認識をチェックします。
第2回	倍音音列の理解	一般的な倍音音列とクラリネットの倍音音列について研究します。
第3回	合奏の技術、注意点	第2回で取り上げた内容を基に、合奏でのハーモニーやバランスの調和の注意点を理解します。
第4回	編成の違いによる吹奏楽サウンドの特徴について②	前期で触れた各編成によるサウンドの特徴を、倍音や楽器編成や調性から研究・理解します。
第5回	吹奏楽検定3級(試験)対策①	これまでの授業の復習と確認、その他の知識について学んでいきます。
第6回	吹奏楽検定3級(試験)対策②	これまでの授業の復習と確認、その他の知識について学んでいきます。
第7回	吹奏楽検定3級(試験)対策①②まとめ	第5回、第6回での内容を確認し、次回の吹奏楽検定3級(試験)へ向けて準備します。
第8回	吹奏楽検定3級(試験)	吹奏楽検定3級(一般社団法人日本管打・吹奏楽学会)を受験します。

学期末試験評価方法

評価方法は、出席60%・試験内容および理解度40%とします。
 評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	マーチング概論 I	山田 江味

科目概要

マーチングバンドの活動・教育的意義、基本動作・ルーティーン記号等の理解およびコンテの作成を年間通して学んでいきます。

到達目標

一般社団法人日本マーチングバンド指導者協会3級ライセンスの取得を目指す。
また基本的な指導を実施できるよう、技術・知識を習得する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	授業内容の説明等
第2回	基本動作①	停止間動作
第3回	基本動作②	行進間動作
第4回	基本動作③	L字の習得と効果的な練習方法
第5回	コンビネーション①	ピンフィール・トリックスピン・フォローザリーダー
第6回	コンビネーション②	ピンフィールセンター・オブリーク
第7回	コンビネーション③	コンビネーションで使われる動作について

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またマーチングの基本的な知識と技術を身につけられているか評価の対象とします。
(出席50%、授業内評価50%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	マーチングバンドの教育的意義	マーチングとはどういうものかを基本から学ぶ
第2回	ペーパートレーニング	3級ライセンス受験に必要な知識
第3回	指導者ライセンスについて	3級ライセンス受験の心得、試験内容の確認
第4回	3級ライセンス検定	3級ライセンス検定実施
第5回	基本動作④	基本動作について
第6回	基本動作⑤	基本動作について
第7回	基本動作⑥	基本動作について
第8回	実技検定①	基本動作を使ったコンビネーションの検定を行う

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またマーチングの基本的な知識と技術を身につけ、正確に動作を表現することができるかを確認し、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。
(出席50%、実技検定30%、授業内評価20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	マーチング概論Ⅱ	山田 江味

科目概要

前期で習得したことに加え、ドラムメジャー、カラーガードの知識・技術を身につけます。

到達目標

前期で習得した基本的な事柄に加え、より幅広い指導を実施できるよう、技術・知識を習得することを目的とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドラムメジャー①	メジャーバトンの基本操作方法
第2回	ドラムメジャー②	パレーディング時のサイン
第3回	ドラムメジャー③	メジャーバトンの応用操作方法
第4回	ドラムメジャー④	メジャーバトンの応用操作方法
第5回	ドラムメジャー⑤	メジャーバトンの応用操作方法
第6回	カラーガード①	フラッグ基本操作方法
第7回	カラーガード②	フラッグ基本操作方法

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。ドラムメジャー、カラーガードについて正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているかを評価の対象とします。

(出席50%、授業内評価50%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	カラーガード③	フラッグ基本操作方法
第2回	カラーガード④	フラッグ基本操作方法
第3回	カラーガード⑤	フラッグ基本操作方法
第4回	応用動作①	T字
第5回	応用動作②	クロス・クロスオーバー・スクエアスピン
第6回	応用動作③	クローズオープン・FM&MT#
第7回	応用動作④	応用動作について
第8回	実技検定②	基本、応用動作を使ったコンビネーションの検定を行う

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またマーチングの基本的な知識と基本、応用技術を身につけ、正確に動作を表現することができるかを確認し、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席50%、実技検定30%、授業内評価20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	コンピュータリテラシー I	笠原 康弘

科目概要

Microsoft office specialistの受検を前提とした エクセル、ワードのスキルアップを目指します。1クォーターでは、WORD、2クォーターでエクセルの基本的コマンドを覚えます。

到達目標

エクセル、ワードの基本をテキストに沿って理解していきます。既に中学、高校で習っている事柄もありますが、復習を兼ねてより完全に把握するという意味で学習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スキル1	コンテンツの作成
第2回	スキル1	コンテンツの作成2
第3回	スキル2	書式設定1
第4回	スキル2	書式設定2
第5回	スキル3	コンテンツの整理
第6回	スキル3	コンテンツの整理2
第7回	テスト	小テストを行います。

クォーター末試験評価方法

テキストに沿って章建てで進んでいく授業形態であるため出席を重視します。出席40%、試験項目30%、平常点30%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スキル1	データとコンテンツの作成
第2回	スキル1	データとコンテンツの作成2
第3回	スキル2	書式設定1
第4回	スキル2	書式設定2
第5回	スキル3	ブックの管理
第6回	スキル3	ブックの管理2
第7回	スキル4	データの分析
第8回	第8回目の授業(試験)テーマ	テストを行います

学期末試験評価方法

テキストに沿って章建てで進んでいく授業形態であるため出席を重視します。出席40%、試験項目30%、平常点30%。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	コンピューターリテラシーⅡ	笠原 康弘

科目概要

3、4クォーターでは、FINALEの基本的操作方法を学習します。

到達目標

FINALEの基本操作を学習します。既存の楽譜とほぼ同様の楽譜を入力できるようにする事が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イントロダクション	オーバービュー
第2回	FINALEドキュメント	ページの作成
第3回	音符の入力	入力作業の実際
第4回	ページセットアップ	ページセットアップにおける様々なコマンド
第5回	ベーシックプロジェクト	入力と編集の手順
第6回	アドバンスド	編集の詳細
第7回	曲の制作	最終データを提出します。

クォーター末試験評価方法

FINALEの基本ができているかをチェックします。出席40%、試験項目30%、平常点30%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Intermediate Skills	編集作業における様々なコマンド。
第2回	Intermediate Skills2	編集作業における様々なコマンド。
第3回	Advanced Skills	アドバンスドな編集方法
第4回	Advanced Skills2	アドバンスドな編集方法
第5回	Orchestral Score	複数楽器の入力と編集
第6回	Orchestral Score2	複数楽器の入力と編集
第7回	Orchestral Score3	複数楽器の入力と編集
第8回	曲の制作	最終データを提出します。

学期末試験評価方法

FINALEの基本ができているかをチェックします。出席40%、試験項目30%、平常点30%。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	合唱 I	野口浩志

科目概要

この授業では、ミュージカルのソロの楽曲を用いて基本的な発声を学びつつ、自然な音楽（歌唱）表現を身に付けます。ソロの歌い手としての感覚を身に付けることを目標とし、自らの身体だけを使って音楽を、そしてストーリーを表現する感性を身に付けます。

到達目標

基本的な発声法を学び、無理のない自然な歌唱表現を身に付けます。鮮明な発音と正確なことばのイントネーションを基にした音楽表現や内容表現を学び、将来自分の楽器演奏にも応用できる歌唱表現の基礎を身につけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基本的な発声の仕組みを、客観的に理解します	人の声を縦笛(リコーダー)に置き換えて、発声の仕組みを具体的に理解し、鳴りの良い声をイメージします
第2回	顔の筋肉を使い、明るい鮮明な発音をめざします	口角を上げることで明るく鮮明な発音を意識し、声をつかむ『角度(高い位置)』をイメージします
第3回	息漏れの原因を理解し、密度の高い音色をめざします	息漏れの原因はただ一つ、吐く息の量が多過ぎるからです。声の『鳴り』と息量のバランスを図ります
第4回	意志をもって『はりのある声』をめざします	水道の蛇口と水の量に例え、器と量との理想的なバランスを具体的にイメージし、充実した声をめざします
第5回	ことばのイントネーションを意識して音楽を表現します I	歌のメロディーは、ことばのイントネーションを活かして創られてることを理解し、表現に応用します
第6回	発声におけるチェンジ・ヴォイスを理解します	だれでもが悩んでしまうチェンジ・ヴォイスについて理解し、具体的な対処法をイメージしていきます
第7回	これまでの体験をもとに、気力充実での演奏をめざします	多少のトラブルに気を囚われることなく、楽曲の持つ【想い】を言葉やメロディーラインにのせて歌います

クォーター末試験評価方法

これまで体験した楽曲の中から、1曲を選択して暗譜で演奏してください。鳴りの良い歌声、鮮明な言葉を意識しての演奏をめざしてください。また、ことばのイントネーションや自然な音楽表現を評価します。無難にこなすのではなく、積極的なトライを期待しています。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディーラインは曲線であることを理解します	楽譜は、音の高低と時間軸を合理的に表したもので、音楽やことばが持つ波や揺れは、演奏者が創るものです
第2回	内容表現の基本はスピードのコントロールです	喜怒哀楽を表現する息づかいにはスピードに関わる視点が大切です。音楽表現に於いても同様のことが云えます
第3回	距離感や方向性、スペース感などを感知、表現の巾を拡げます	ことばや音楽から感じとれる雰囲気や、具体的な距離、方向、スペースなどに置き換えて具体的に表現を構築します
第4回	ことばのイントネーションを意識して音楽を表現します II	ことばのイントネーションを活かした自然な表現と、音楽づくりの質の向上を探求します。
第5回	音楽の揺れを客観的に理解し表現に応用します	メロディーにおける骨組みと装飾部分を区別し、音楽の波や揺れを把握し表現を拡大します
第6回	曲中のストーリー展開を把握して音楽構成を考えます	作曲家の指示は勿論、それ以上にストーリー展開から導かれる音楽構成を、指揮者的な立場から考えます
第7回	観客を前にしたステージを意識して舞台に臨む準備をします	実際のステージに臨んだ時のシミュレートを実施し、立ち姿や視線を含むパフォーマンスを身に付けます
第8回	役者として、表現者としてのステージを創ります	声づくり、表現づくりを元にした総合的なテクニックと、強い精神力に支えられた表現者としての完成度を上げます

学期末試験評価方法

これまで体験した楽曲の中から、1曲を選択し暗譜で演奏してください。
この授業の内容は歌唱力や表現をアップさせるためのテクニックです。また、その感じ方も人それぞれで微妙に違っているのは当然です。大切なのは、言葉と音楽のコラボレーションによる表現の追及です。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	合唱Ⅱ	野口浩志

科目概要

春学期の目標であった【将来、自分の楽器演奏にも応用できる歌唱表現の基礎力】は身についたかを検証しつつ、クラシックジャンルの楽曲を用いて、声づくりや表現づくりについて一層のレベルアップを計り、クオリティの向上をめざします。

到達目標

各国のクラシック楽曲も体験しジャンルの拡大、奥行き感のある声づくりや音域の拡大をめざすことのできる発声法の習得と、ことばや音楽の持つ揺れや波を表現できる感性を磨きます。そして将来、自分の楽器演奏にも十分に応用できる歌唱力の向上をめざします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イタリアカンツォーネにより輝かしい声の鳴りを理解します	イタリアカンツォーネ“O Sole Mio”の楽曲を使い、イタリア・ペルカントの色彩と鳴りを体感します
第2回	イタリアカンツォーネにより高音の発声法を体感します	イタリアカンツォーネ“Santa Lucia”の楽曲を使い、イタリア・ペルカントの色彩と鳴り、そして高音へのアプローチ法を体感します
第3回	シューベルト歌曲により深い音色と言葉の表現を体感します	Schubert歌曲“Heiden Roselein”の楽曲を使い、ドイツ歌曲の表現と詩の解釈を体感します
第4回	オペレッタの楽曲等により豊かな音楽表現を体感します	“ウィーンわが夢の街”の楽曲を使い、ドイツ歌曲の表現と言葉を体感し、音楽的な高揚感と高音の発声に挑みます
第5回	英語圏の歌曲により言葉と音楽づくりの調和を思考します	Vaughan Williams“In Dreams”の楽曲を使い、英語歌詞と音楽表現のコーポレーションを考えます
第6回	ミュージカル曲により言葉と音楽づくりを考えます	R.Rodgers“If I loved you”の楽曲を使い、ことばと音楽表現の自然な流れを模索します
第7回	外国語による演奏で、ことばとメロディーのコーポを体感します	ことばの持つ意味合いを如何にメロディーにのせていくかを考え、多角的な音楽表現につなげていきます

クォーター末試験評価方法

これまで体験した楽曲の中から、1曲を選択して暗譜で演奏してください。鳴りの良い歌声、鮮明な言葉を意識しての演奏をめざしてください。また、ことばのイントネーションや自然な音楽表現に加え、チェンジヴォイスの活用により高音域の表現をめざした姿勢を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱表現と音楽構成とを考えます I	日本歌曲“からたちのほな”を使い、ことばの抑揚とそれが音楽表現・音楽構成に与える影響を考えます
第2回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱表現と音楽構成とを考えます II	日本歌曲“からたちのほな”を使い、ことばの抑揚とそれが音楽表現・音楽構成に与える影響をまとめます
第3回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱力と音楽構成の質の向上をめざします I	R.Rodgers“Something Wonderful”の楽曲を使い、ことばの持つ意味合いの表現と、音楽構成への取り組みをすすめます
第4回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱力と音楽構成の質の向上をめざします II	R.Rodgers“Something Wonderful”の楽曲を使い、ことばの持つ意味合いの表現と、音楽構成への取り組みをまとめます
第5回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱表現力と音楽構成の質を高めます I	F.Wildhorn“When I look at you”の楽曲を使い、ことばの持つ意味合いの表現と、音楽構成への取り組みをすすめます
第6回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱表現力と音楽構成の質を高めます II	F.Wildhorn“When I look at you”の楽曲を使い、ことばの持つ意味合いの表現と、音楽構成への取り組みをまとめます
第7回	ドラマ性の高い楽曲により歌唱表現力と音楽構成力の総合力向上を計ります	F.Wildhorn“Dying aint so bad”の楽曲を使い、ことばの持つ意味合いの表現と音楽構成への繋がりをまとめ、合わせて攻撃的な表現を考えます
第8回	演技を含めて表現者としてのステージをめざします	声、演技表現についての総合的なテクニックと、強い精神力に支えられた表現者としての完成度をステージで表現します

学期末試験評価方法

楽曲の持つ“伝えるべき内容”に責任を持って演奏に向かいます。演出家・指揮者の立場を想像し、客観的な表現をもイメージして演奏に臨みましょう。人それぞれに、物事に対する感じ方が違っているのは当然です。常に客観的な視点を持って、表現力をレベルアップして行きましょう。基本のテクニックを元に、自分の表現方法を創造していきましょう。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ピアノ基礎技法Ⅰ	瀬川千穂

科目概要

クラシックピアノの基礎を学びます。Ⅰクォーターではバロック時代、Ⅱクォーターでは古典派時代の曲を弾いていきます。手や指の使い方(タッチ)、姿勢など身体の使い方や、ピアノ曲の楽譜を読み取る勉強をします。スケール(音階)や、曲の練習法などを実習しながら身につけていきましょう。

到達目標

スケール(音階)は1octaveから4octaveまで、自分のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。曲は初級～上級の課題曲から自分に合ったものを選曲し、クォーター末試験で時代様式を踏まえた演奏を発表する事を目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック時代(1)概要と選曲	バロック時代の概要を解説します。課題曲を聴き、自分に合ったものを選曲します。スケールはC Dur, a mollから実習します。
第2回	バロック時代(2)バッハ	バッハについて解説します。曲を聴き、バロックの響きをイメージします。課題曲とスケールの実習とレッスンをします。
第3回	バロック時代(3)バッハ	バッハの曲をチェンパロで聴いてみます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第4回	バロック時代(4)スカルラッティ	スカルラッティの曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第5回	バロック時代(5)	課題曲とスケールの実習とレッスンをします。仕上げの目処を立てていきます。
第6回	バロック時代(6)仕上げ	課題曲とスケールの実習とレッスンをします。次週の試験に向けて課題曲を仕上げます。
第7回	バロック時代(7)試験	これまで6回の授業で勉強した曲を発表します。

クォーター末試験評価方法

出席50%、試験50%の合計で成績を出します。
7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	古典派時代(1)概要と選曲	古典派時代の概要を解説します。課題曲を聴き、自分に合ったものを選曲します。スケールは1クォータから引き続き実習します。
第2回	古典派時代(2)ハイドン	ハイドンのピアノ曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第3回	古典派時代(3)モーツァルト	モーツァルトのピアノ曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第4回	古典派時代(4)ベートーヴェン	ベートーヴェンのピアノ曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第5回	古典派時代(5)	ソナタ形式を学びます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第6回	古典派時代(6)	課題曲のを仕上げの目処を立てていきます。強弱、響きのバランス、アーティキュレーションなど、古典派らしさをめざします。
第7回	古典派時代(7)仕上げ	課題曲とスケールの実習とレッスンをします。次週の試験に向けて課題曲を仕上げます。
第8回	古典派時代(8)試験	これまで7回の授業で勉強した曲を発表します。

学期末試験評価方法

出席50%、試験50%の合計で成績を出します。
8回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ピアノ基礎技法Ⅱ	瀬川千穂

科目概要

Ⅲクォーターはロマン派のピアノ曲、Ⅳクォーターは近代のピアノ曲、または自由曲を勉強します。ペダルを使いピアノらしい充実した響きでの演奏を目指します。またハーモニーや曲の分析もしながら実習します。スケールは引き続き個人のペースで調を進めていきます。

到達目標

スケール(音階)は1octaveから4octaveまで、自分のレベルに合わせた形で弾けるようになれば合格とし、次の調へ進みます。曲は初級～上級の課題曲から自分に合ったものを選曲し、クォーター末試験で時代様式を踏まえた演奏を発表する事を目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロマン派時代(1)のピアノ曲	ロマン派時代の概要を解説します。課題曲を聴き、自分に合ったものを選曲します。スケールはⅡクォータから引き続き実習します。
第2回	ロマン派時代(2)ショパン	ショパンについて解説し、曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第3回	ロマン派時代(3)シューマン	シューマンについて解説し、曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第4回	ロマン派時代(4)メンデルスゾーン	メンデルスゾーンについて解説し、曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第5回	ロマン派時代(5)リスト	リストについて解説し、曲を聴きます。課題曲の仕上げの目処を立てます。スケールの実習とレッスンをします。
第6回	ロマン派時代(6)仕上げ	課題曲とスケールの実習とレッスンをします。次週の試験に向けて課題曲を仕上げます。
第7回	ロマン派時代(7)試験	これまで6回の授業で勉強した曲を発表します。

クォーター末試験評価方法

出席50%、試験50%の合計で成績を出します。
7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近代(1)のピアノ曲	近代の概要を解説します。課題曲から選曲、または自由曲を選んで良しとします。スケールはⅢクォータから引き続き実習します。
第2回	近代(2)フランスの作曲家	ドビュッシーについて解説し、曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第3回	近代(3)フランスの作曲家	ラヴェルについて解説し、曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第4回	近代(4)フランスの作曲家	プーランクやサティの曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第5回	近代(5)ロシアの作曲家	ラフマニノフなどの曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第6回	近代(6)ロシアの作曲家	プロコフィエフなどの曲を聴きます。課題曲の譜読みとスケールの実習とレッスンをします。
第7回	近代(7)仕上げ	課題曲とスケールの実習とレッスンをします。次週の試験に向けて課題曲を仕上げます。
第8回	第8回目の授業(試験)テーマ	これまで7回の授業で勉強した曲を発表します。

学期末試験評価方法

出席50%、試験50%の合計で成績を出します。
7回の授業でどれだけ進歩したかを評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ピアノ基礎技法 I	大導寺錬太郎

科目概要

ピアノの演奏に必要なテクニック及び読譜の基礎、それと並行してバロック時代・古典派時代の作品を学びます。1クォーターではバロック作品、2クォーターでは古典派の作品を取り上げ、レベルに応じた課題に取り組みます。また適宜、連弾や2台ピアノ等アンサンブル作品も取り入れ、ソロ以外のピアノの魅力も体験していただきます(予定)。初心者も対応します。

到達目標

バロック・古典派それぞれの様式を理解して、適切なテンポ・表現で演奏出来る事が本授業の目標です。基本的なテクニック(指の練習・スケール・アルペジオ等)を身につけて、手指・肘・腕に負担のかからない正しい奏法で弾く事を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノという楽器について	ピアノの特徴、上達に必要な要素について解説します。又1クォーターの課題を発表、曲の選び方についても指導します。
第2回	バロック作品を学ぼう・基礎技術の確認①	バロック音楽の特徴や読譜の仕方を学びます。又実力に応じたテクニック課題を実施、運指や手首・腕の使い方を覚えます。
第3回	バロック作品を学ぼう・基礎技術の確認②	楽譜の様々な情報を正確に守って弾けるよう指導します。テクニックは実力に応じた課題を実施、基本を徹底して学びます。
第4回	バロック作品を学ぼう・基礎技術の確認③	リズムの取り方やフレージングの感じ方、和声の動きを把握しそれに伴った歌い方を学びます。技術面は基本を徹底します。
第5回	バロック作品を学ぼう・基礎技術の確認④	演奏曲の自然な歌い直し、休符の感じ方やフレーズの収め方等を学びます。テクニックは基本を継続して学びます。
第6回	バロック作品を学ぼう・基礎技術の確認⑤	左右の動きを「聴いて」弾けているか、の確認を弾き歌い練習を通して行ないます。テクニックは基本を継続して学びます。
第7回	授業のまとめ(1クォーター末試験)	第1回～第6回授業のまとめとして、これまで練習してきたバロック作品及びテクニック課題を披露します。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1回～第6回各3点、試験の第7回のみ7点で計算。遅刻は減点1となります)、平常点25%(受講態度・学習意欲等)、試験50%の割合で評価します。それぞれのレベルでどれ位努力したかを重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	古典派作品を学ぼう①・基礎技術確認⑥	古典派音楽の特徴について解説し、課題曲を発表します。課題曲のレベル、又演奏上の注意点等も説明します。
第2回	古典派作品を学ぼう②・基礎技術確認⑦	楽譜の情報を確認し、曲の雰囲気をつかみます。テクニックは1クォーターに続き更に高度な課題に挑戦、精度を高めます。
第3回	古典派作品を学ぼう③・基礎技術確認⑧	演奏曲の部分練習を行ないます。音楽・技術の両面で上手いかない箇所の反復練習を通し、完成度を上げていきます。
第4回	古典派作品を学ぼう④・基礎技術確認⑨	旋律と伴奏のバランスを学びます。特に利き手でない方の打鍵のコントロールの仕方を覚え、耳に心地良い演奏を目指します。
第5回	古典派作品を学ぼう⑤・基礎技術確認⑩	テンポキープや適切な拍子の感じ方について学びます。リズムの重⇄軽の意識を高め、自然な抑揚を身に着けます。
第6回	古典派作品を学ぼう⑥・基礎技術確認⑪	仕上げに向けた高度な練習法を学びます。リズム練習をはじめ、歌とPFを合わせた練習も取り入れ、ソルフェージュ力も高めます。
第7回	古典派作品を学ぼう⑦・基礎技術確認⑫	間の取り方、呼吸の感じ方等を学びます。平板でない緊張感・躍動感のある演奏を目指します。
第8回	授業のまとめ(2クォーター末試験)	第1回～第7回授業のまとめとして、これまで練習してきた古典派作品及びテクニック課題等を披露します。

学期末試験評価方法

出席25%(第1回～第7回各3点、試験の第7回のみ4点で計算。遅刻は減点1となります)、平常点25%(受講態度・学習意欲等)、試験50%の割合で評価します。それぞれのレベルでどれ位努力したかを重視します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ピアノ基礎技法Ⅱ	大導寺錬太郎

科目概要

春学期に引き続き、ピアノの演奏に必要なテクニック及び読譜の基礎・応用、それと並行して3クォーターではロマン派作品、4クォーターでは近現代の作品を学びます。また適宜、連弾や2台ピアノ等アンサンブル作品も取り入れ、ソロ以外のピアノの魅力も体験していただきます(予定)。

到達目標

ロマン派及び近現代作品の特徴を理解し、適切にピアノで表現できることを目標としています。春学期から継続して行なっているテクニック(主にスケール・アルペジオ)は調号の多い課題も弾けるようにし、より無駄のない効率の良い指さばきを身に付け、スムーズで音楽的な演奏を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロマン派作品を学ぼう①・技術応用①	ロマン派音楽の特徴と課題曲の解説を行ないます。その解説を基にこのクォーターで取り組む作品を選びます。
第2回	ロマン派作品を学ぼう②・技術応用②	演奏曲の楽譜に書かれている情報を確認し、どのような雰囲気の商品かを読み解きます。
第3回	ロマン派作品を学ぼう③・技術応用③	演奏曲の部分練習を行ないます。音楽・技術の両面で上手いかわからない箇所の反復練習を通し、完成度を上げていきます。
第4回	ロマン派作品を学ぼう④・技術応用④	旋律と伴奏のバランスを学びます。特に利き手でない方の打鍵のコントロールの仕方を覚え、耳に心地良い演奏を目指します。
第5回	ロマン派作品を学ぼう⑤・技術応用⑤	テンポキープや適切な拍子の感じ方について学びます。リズムの重⇄軽の意識を高め、自然な抑揚を身に着けます。
第6回	ロマン派作品を学ぼう⑥・技術応用⑥	演奏曲の仕上げに向け、細部の歌い回しやフレージング、呼吸の取り方、左右のバランス等確認し、完成度を高めます。
第7回	授業のまとめ(3クォーター末試験)	第1回～第6回授業のまとめとして、これまで練習してきたロマン派作品及びテクニック(スケール又はアルペジオ)を披露します。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1回～第6回各3点、試験の第7回のみ7点で計算。遅刻は減点1となります)、平常点25%(受講態度・学習意欲等)、試験50%の割合で評価します。それぞれのレベルでどれ位努力したかを重視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近現代作品を学ぼう①・技術応用⑦	近現代作品の特徴と課題曲の解説を行ないます。その解説を基にこのクォーターで取り組む作品を選びます。
第2回	近現代作品を学ぼう②・技術応用⑧	演奏曲の楽譜に書かれている情報を確認し、どのような雰囲気の商品かを読み解きます。
第3回	近現代作品を学ぼう③・技術応用⑨	演奏曲の部分練習を行ないます。音楽・技術の両面で上手いかわからない箇所の反復練習を通し、完成度を上げていきます。
第4回	近現代作品を学ぼう④・技術応用⑩	旋律と伴奏のバランスを学びます。特に利き手でない方の打鍵のコントロールの仕方を覚え、耳に心地良い演奏を目指します。
第5回	近現代作品を学ぼう⑤・技術応用⑪	テンポキープや適切な拍子の感じ方について学びます。リズムの重⇄軽の意識を高め、自然な抑揚を身に着けます。
第6回	近現代作品を学ぼう⑥・技術応用⑫	演奏曲が作られた経緯や、作曲家について調べ、その作品をより深く理解し演奏につなげます。
第7回	近現代作品を学ぼう⑦・技術応用⑬	演奏曲の仕上げに向け、細部の歌い回しやフレージング、呼吸の取り方、左右のバランス等確認し、完成度を高めます。
第8回	授業のまとめ(4クォーター末試験)	第1回～第7回授業のまとめとして、これまで練習してきた近現代作品及びテクニック(スケール又はアルペジオ)を披露します。

学期末試験評価方法

出席25%(第1回～第7回各3点、試験の第8回のみ4点で計算。遅刻は減点1となります)、平常点25%(受講態度・学習意欲等)、試験50%の割合で評価します。それぞれのレベルでどれ位努力したかを重視します。